

Quality is more than a word



CSR Report

Corporate Social Responsibility Report 2013



編集方針

- エスペック株式会社の発行するCSRレポートは、当社が果たすCSR(企業の社会的責任)の考え方と活動についてステークホルダーのみなさまにわかりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的に発行しています。
- 本誌では、ステークホルダーのみなさまや社会の関心が高く、なおかつエスペックにとって重要な取り組みから内容を選択して企画・編集しました。特に重要と考える取り組みについては特集ページにて取り上げました。
- 企業活動の報告に関しては「CSRマネジメント」「社会性パフォーマンス」「環境パフォーマンス」の3部構成としています。
- 当社ホームページ上でも関連情報を開示しています。
エスペックホームページ：<http://www.espec.co.jp/>
- 経済パフォーマンスの情報につきましては、ファクトブックをはじめとする各種IR資料をご覧ください。

対象範囲

【事業所の対象範囲】

エスペックグループの主要な関係会社・事業所を対象としています。ただし、すべての項目についてカバーしているのではなく、各社の規模や事業内容に応じて記載しています。

【対象期間】

主に2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)を対象期間としていますが、一部2013年度の活動についても掲載しています。

準拠したガイドラインなど

- ・ 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- ・ 環境省「事業者の環境パフォーマンス指標」
- ・ GRI(Global Reporting Initiative)
「GRIガイドライン第3版(Sustainability Reporting Guidelines version 3.0)」

発行時期

毎年10月発行

CONTENTS

THE ESPEC MIND (企業の価値観)	02
TOP MESSAGE	03
ESPECの事業	05
特 集	
1 持続可能な社会にむけてグリーンプロダクトの創出 次世代の国際標準器プラチナスJシリーズのご紹介	07
2 福島県川内村農業の再生と雇用の創出に向けて 「川内高原農産物栽培工場」が稼働	11
CSRマネジメント	15
社会性パフォーマンス	
お客さまとのかかわり	17
従業員とのかかわり	19
取引先さまとのかかわり	22
株主・投資家さまとのかかわり	23
社会とのかかわり	25
環境パフォーマンス	
環境マネジメント	27
環境に配慮した製品	31
環境に配慮した工程	33
社会からの評価	34
事業活動のマテリアルバランス	35
実績データ	36
環境会計	37
会社概要	38

創業当時から脈々と伝わる大切な価値観を
THE ESPEC MIND として体系的に取りまとめ、
あらゆる意思決定や活動の指針として企業活動を行っています。

起点

公器として、より高い価値を交換すること 企業の存在理由

そもそも企業とは公器であり、人々や社会の期待に応えるために存在するものです。エスペックも同様、「より確かな生環境を提供すること」を社会的使命として存在しています。さらに、ステークホルダーとの価値交換をより良いものにしていくことが社会的装置としての価値を高め、人々の幸せ実現の一助となると当社は考えています。

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供 エスペックが追求すべき永遠のテーマ

エスペックは「環境創造技術」を核とする事業で、「より確かな生環境を提供すること」を使命としています。生環境とは、すべての生き物が生きていくための環境、あるいは目的を持って作られた機器がその機能を十分発揮できる環境のことです。生環境という言葉は私たちが自らつくり出した言葉です。それはエスペックの事業が独創的であるからにほかなりません。

スタイル

プログレッシブ ミッションの実現に向けた企業姿勢

エスペックの企業活動のあるべき姿、それは「プログレッシブ(進取的)」です。かつて先達が「環境試験器」という言葉もない時代にそのニーズを察知し、事業のかなめとしたように、プログレッシブであることは当社が大切にしてきた企業姿勢であり、次代に受け継ぐ伝統でもあります。プログレッシブと共に、リアルな(誠実な)、オープン(開放的な)、フェア(公正な)といった企業姿勢も大切にしています。

宣言

エスペックが社会に約束すること 良き社会の一員としての誓い

企業活動の範囲が拡大するなかで、順守すべきものや尊重すべきものが明確になってきました。それらは「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」です。例えば、「遵法」という考え方において、私たちは法を犯さない範囲であれば何をやってもいいという訳ではありません。法の上に社会的な良識や人々の考えといったものがあり、当社はその領域で活動を行います。また、国や地域が異なれば倫理規範などの解釈に違いがみられることがしばしばあります。その場合はより社会性が高い活動を選択することとしています。

「文化」「人権」「環境」「啓発」においても同様に、これらの事柄を積極的に守り、育てる決意を「宣言」というかたちで社会に表明し、実践しています。



ステークホルダーのみなさまへ

CSRとエスペックの経営

「企業は人々のさまざまな願い、社会の期待に応えるために存在している」これは当社の企業理念 THE ESPEC MINDの中の『起点』に謳われている言葉です。ここに書かれていることは、当社のCSR（企業の社会的責任）の原点といえるものです。当社がどのように社会とかわっていくのか。それは、創業当時から引き継いでいる「企業は公器である」といった考え方であり、さらに、ステークホルダー（顧客・従業員・株主・地域社会のみなさま）と価値を交換し合い、より良い関係を築いていこうとするものです。このような考え方にもとづいた経営を行うことで、これまで成長を続けることができました。

当社は、事業を通して社会的責任を果たそうとしていますが、現代において企業に期待される役割の範囲は増大しています。環境保全、エネルギー問題、少子高齢化社会への対応など、多岐に渡ります。当社はこうした問題についても常に関心を高く持ち、引き続き社会の一員としての務めを果たしてまいります。

環境創造技術とグリーンテクノロジー

エスペックの使命は「環境創造技術でより確かな『生環境』を提供」することです。事業の柱である環境試験器においては高い性能、信頼性、安全性に加え、独自の省エネ技術を融合させることに成功し、プラチナスJシリーズが優秀省エネルギー機器表彰

を受賞いたしました。また、中期経営計画の基本方針でも示したように、今後成長が期待されるグリーンテクノロジー市場において、装置の拡販と新サービスの導入など、多様なニーズに対応してまいります。

社員とともにプログレッシブに

アベノミクスで景気回復の期待が高まるものの、我が国経済の先行きは今もって不透明です。これまで成長を牽引してきた中国やインドなどの新興国の見通し悪化に加え、テロや紛争、資源問題などの世界的なリスク要因も高まるばかりです。当社を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況ですが、当社は環境試験器の世界のトップメーカーとしての誇りと責任を持ち、確たるビジョンに向かって突き進んでまいります。環境変化が激しい現代こそ、私たちは「あるべき姿」を今まで以上にしっかりと見定め、全社一丸となって突き進んでゆかなければなりません。そのためには当社の企業理念である THE ESPEC MIND の理解を深め、実践する能力をより一層高めていく必要があります。当社は引き続き人材教育に力を入れ、企業力を高める努力を続けてまいります。私たちは今後も仲間とともに、プログレッシブかつクリエイティブに活動を続けてまいります。

2013年10月

代表取締役社長

石田 雅昭



ESPECの事業

企業には自ら選択したテーマで社会に貢献する責任があります。

エスペックは「環境創造技術をかねめとした事業で、より確かな生環境を提供する」ことを使命としています。環境試験器のパイオニアとして半世紀にわたり、先端技術の発展と信頼を支え続けています。

環境試験の総合ソリューション

私たちの生活は、最先端の技術を駆使した製品や電子機器に囲まれています。新技術が次々と組み込まれ、製品はより高度化し、複雑化しています。こうしたなか、製品や部品の信頼性を確保する環境試験の重要性はさらに高まってきています。当社は、先端技術の発展に欠かすことのできないこの分野において、試験装置の提

供、受託試験、そして装置のメンテナンスはもちろん、製品レンタルなど環境試験の総合ソリューションを提供しています。私たちの事業領域は広く、自動車や電子部品、薬品、食品のみならず、太陽電池や二次電池などグリーンテクノロジーの分野にも及んでいます。

● 環境試験装置

温度・湿度・圧力・振動など環境因子を人工的に再現し、工業製品の信頼性や耐久性を確認する環境試験器を、多様な用途に合わせて豊富な製品群で提供しています。



恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ

● グリーンテクノロジー関連装置

二次電池、パワー半導体、太陽光発電など、環境やエネルギー分野における先端技術の課題解決に貢献する試験装置を提供しています。



二次電池評価用
アドバンスト
バッテリーテスター



パワー半導体評価用
パワーサイクル試験装置



太陽電池評価用
大型温湿度槽 FMシリーズ

● 受託試験サービス

お客様の試験の設計・実施から分析・評価、結果に対する報告、提案までトータルなサービスを提供しています。



● 半導体関連装置

半導体などの電子部品に高温で電圧・電流のストレスを与え、短時間で不良品を見つけ出すバーンイン装置を提供しています。

● 計測システム機器

パワー半導体などの電子部品の性能を評価するために、試験の条件設定から試験の評価・分析を自動的に行うシステム機器を提供しています。

● 植物工場事業

無農薬で安心な野菜を計画的に栽培できる植物工場を提供しています。環境創造技術を駆使した植物工場は、食の安全が懸念されるなか、国内だけでなく海外でも特に注目されています。

● 自然環境の復元・創造事業

日本由来の植物を植える自然の「森づくり」、自然の河川を取り戻す「水辺づくり」、生態系という視点から自然環境を復元し、創造する事業を行っています。



グローバルな総合力

当社は、環境試験市場で高いシェアを誇り、優れた品質と技術力で世界中のお客さまから高い信頼を得ています。お客さまのニーズをできるだけ深く追求し、それに応えると同時に、お客さまの創造性をさらに高めるサービスの提供に心がけています。当社は、こうした努力が当社を世界から信頼されるブランドに育てるのだと確信しています。

さらに、世界各国に9つのグループ企業と販売ネットワークを設置し、世界中のお客さまにクオリティの高い製品やサービスをお届けしています。グローバル企業として国際社会においても、より信頼される企業となるよう取り組んでいきます。

- 国内代理店 **48**社
- 海外販売ネットワーク 43カ国 **33**社



本社(大阪市)



上海愛斯佩克環境設備 有限公司



ESPEC KOREA CORP.



ESPEC NORTH AMERICA, INC.

環境や新エネルギー技術の発展に貢献 「エネルギーデバイスの信頼性入門」を発売

2012年11月、書籍「エネルギーデバイスの信頼性入門」を発売いたしました。持続可能な社会に向けて、省エネ・低炭素・蓄電に貢献する二次電池、パワー半導体、太陽電池などのエネルギーデバイスの需要が拡大しています。本書では、これらデバイスの原理や信頼性試験方法について基礎から応用までを解説しています。当社が培った信頼性技術の研究が、環境や新エネルギー技術の発展に貢献できることを願っています。



書籍名: エネルギーデバイスの信頼性入門
 出版社: 日刊工業新聞社
 発行日: 2012年11月30日

持続可能な社会に向けて グリーンプロダクトの創出 次世代の国際標準器 プラチナスJシリーズのご紹介

当社の主力製品であるプラチナスJシリーズが、平成24年度(第33回)優秀省エネルギー機器表彰(日本機械工業連合会主催、経済産業省後援)において「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。当社では第19回(1998年度)プラチナスKシリーズに続いて2回目の受賞です。当社は環境試験のリーディングカンパニーとして、「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、その解決に向けて果敢に挑戦しています。優秀省エネルギー機器表彰を受賞した環境試験器の国際標準器「プラチナスJシリーズ」開発の取り組みについてご紹介します。



工業製品の信頼性確保に欠かすことのできない環境試験器 プラチナスJシリーズ 従来比最大70%の省エネを達成

環境試験は、試験器内部に半導体や電池、電子部品などを入れ、温度や湿度を変えたり、圧力を加えたりして環境の影響を調べ、それらの信頼性や耐久性を確保するための試験です。部品が高温下で膨張して製品に不具合を起してしまうなどの問題を見つけ、改良につながるものです。例えば、エコカーに使用される電子部品の信頼性を確認するためには、150℃の高温槽に

1,000時間の試験、85℃85%の高温高湿槽に1,000時間の試験などを行います。装置が連続して何日間も稼働するため、消費電力の削減は環境面でもコスト面でも継続的な課題でした。「徹底した省エネ」を開発コンセプトの第一に掲げたプラチナスJシリーズは、従来器と比べ、最大省エネ率70%低減を達成しました。



恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ



優秀省エネルギー機器

第33回優秀省エネルギー機器
「日本機械工業連合会会長賞」を受賞



GOOD DESIGN
AWARD 2012

省エネ率
最大 **70%**

※指定運転パターン

初代プラチナスシリーズからご愛用いただいて半世紀 「ハイクオリティ」と「優れた環境性能」を両立

1961年、当社は日本で初めて環境試験器を開発し、1969年には、環境試験器の業界標準となる「プラチナスシリーズ」を発表しました。以来、同シリーズ製品は半世紀に渡って世界中のお客さまにご愛用いただいています。現在までモデルチェンジを重ね8代目となるプラチナスJシリーズでは、お客さまのご要望に対応できるように全30種類の器種を取り揃えています。全器種の省エネ率は、平均で55%削減を達成、最大では70%の削減を達成しています。当社製品は、自動車やエレクトロニクス、食品、薬品など幅広い業界において、研究開発から品質管理までさまざまな用途でご使用いただいています。日本国内では30,000台以上(当社推定)の歴代プラチナスシリーズが稼働しており、新たにプラチナスJ

シリーズに置き換えていただくことにより、より一層の環境負荷低減に貢献できると考えています。

■ プラチナスJシリーズと従来器との省エネ比較

	製品名	型式	温度範囲	湿度範囲	省エネ(従来比)
恒温恒湿器	恒温恒湿器	PR	-20~+100℃	20~98%rh	最大55%省エネ
	低温恒温恒湿器	PL	-40~+100℃		最大70%省エネ
	超低温恒温恒湿器	PSL	-70~+100℃		最大68%省エネ
低温恒温器	低温恒温器	PU	-40~+100℃	—	最大66%省エネ
	超低温恒温器	PG	-70~+100℃	—	最大68%省エネ

徹底した省エネ・環境性能を高めた エスペックの独自技術

新冷凍回路システム:Smart R&Dを開発
冷凍PID容量制御で大幅な省エネ実現

環境試験器は、[冷却・除湿]と[加熱・加湿]のバランスで温湿度を制御しており、熱容量の大きい冷却器が装置の消費エネルギーを左右します。冷却器の能力は温度降下性能、最低温度維持、試料の最大許容発熱量のいずれか大きい方で決まります。しかし、この冷却器の能力は常時必要という訳ではありません。希望する温湿度を維持する安定時に、必要最小限の冷却能力に抑えることができれば、高い省エネが実現できると着目し、二つの制御技術を開発しました。一つは、メイン冷凍回路(1.5kW)に、サブ冷凍回路(400W)、バイパス回路、電磁弁制御などを組み合わせた“冷凍容量”制御。二つ目は、計測・演算処理を高速化したコントローラによる“冷凍PID”制御で、冷却能力の可変幅拡大と制御安定性の両立を図りました。他にも凝縮器ファンの風量を冷凍能力に応じて可変させるなど、細部にまでこだわった省エネ化を追求しました。

冷凍システムにヒートパイプを初めて搭載
省エネ、ノンフロン、低騒音・低振動を実現

高温高湿試験(85℃85%など)専用で使用される高温高湿器では冷凍機を搭載せず環境試験器では世界初となるヒートパイプを採用しました。ヒートパイプは、20世紀半ばに開発された技術で、熱輸送量が大きく早い(熱伝導率が銅の100倍)、動力源や駆動部がなくノンフロンなどの特徴があります。この特徴から、半導体素子の放熱器や温度制御用機器としてさまざまな分野で使用されていますが、環境試験器のような温湿度制御用機器としては当社が初めて活用しました。冷凍システムにヒートパイプを採用し、冷凍システムでの電力使用がないため消費電力を低減することができます。試験中の部品に発熱がある場合も、ヒートパイプ方式は冷却に電力が不要でかつ加湿も最小限で済むため省エネになります。また、ヒートパイプを採用することにより、ノンフロン化、低振動/低騒音化、メンテナンスフリー化(信頼性向上)などの環境面でのメリットを同時に得ることができました。

さらに進化するプラチナスJシリーズ お客様の信頼を支えるエスペックのモノづくり

プラチナスJシリーズがお客様からの信頼を得ている理由のひとつが、お客様のご要望に合わせた仕様の製品を短納期でお届けできることです。プラチナスJシリーズでは全器種30種類に対して、100種類以上のオプションをご用意しています。お客様に必要なオプションを選んでいただき付加するため、何万通りもの器種となります。このような多品種対応を支えているのが当社の福知山工場(京都府福知山市)のモノづくりの力です。福知山工場では多品種少量生産を前提とした柔軟な生産ラインを構築し、お客様の要求にきめ細かく

対応することができます。海外の環境試験器メーカーには多品種対応ができる企業はそれほど多くなく、当社ほどの製品ラインを持っている企業もあまり見当たりません。グローバル化が進展する中、世界中を見渡しても他社では作れない製品を短納期で作ることのできる福知山工場の存在が、国際標準器プラチナスJシリーズの強さを支えています。お客様のお役に立ち、よりお客様の信頼を獲得できるよう、エスペックのモノづくりは、これからも進化し続けていきます。



福知山工場(京都府福知山市)

お客様の価値を高める技術開発めざして 挑戦を続けるエスペックの開発者たち

当社では、新製品の省エネ率は従来器比30%削減という明確な評価指標があります。これに基づきプラチナスJシリーズでも30%削減を目標に取り組みましたが、30器種全ての製品での達成は時間的にも難しい状況でした。当時、技術開発担当役員の石田(現社長)は「お客様の視点で商品価値を考えること。妥協せずに絶対に期間内でシリーズ全器種30%削減を達成すること」と開発陣へ指示。開発者たちのチャレンジと苦闘が始まりました。試行錯誤の末、新しい省エネ技術の開発に成功し、最終的には当初の目標を上回る最大70%の省エネを達成することができました。ベテラン技術者と若手技術者が一丸となって高いハードルを乗り越え、当社独自の省エネ技術を生み出すことができました。これからも、お客様の視点を忘れずに、独自の技術開発にチャレンジしていきます。



優秀省エネルギー機器/開発者表彰受賞メンバーと石田社長(中央)



仕事の合間を見つけては、社長自らが開発現場に足を運び技術者たちと意見を交わしています

沖エンジニアリング株式会社様を訪問

長年にわたってエスペックをご愛顧いただいています沖エンジニアリング株式会社様。信頼性技術事業部・今井康雄取締役を訪問し、当社や当社製品についてお話を伺いました。



信頼性技術事業部
取締役 今井 康雄 様

▶ 沖エンジニアリング様では、昭和48年の設立の頃から現在まで継続して当社製品をご使用いただきましてありがとうございます。

沖エンジニアリングは今年で創業40周年を迎えますが、その頃からずっとエスペックさんの装置を使用しています。沖エンジニアリングの試験所では95%がエスペックさんの装置です。埼玉県本庄市の北関東試験センターではさまざまな種類の装置が90台以上稼働しています。

▶ 恒温恒湿器プラチナスシリーズは発売から約50年がたち、今回のJシリーズは8代目となりますが、歴代のプラチナスシリーズをご使用いただいているのですか？

プラチナスEシリーズからG、F、S、KそしてJシリーズと継続して使っています。プラチナスシリーズは、シリーズが変わるごとに装置が改良され確実に進化していくところがいいですね。

▶ 当社と継続してお取引いただけた理由をお聞かせください。

エスペックさんの装置は、他社製品と比べて温湿度制御の精度が非常に高いので信頼できます。毎年1回、装置の温湿度の校正を実施していますが、その温湿度精度の高さに感心しています。さらに、エスペックさんの装置は他社製品と比べると壊れにくい。だから、お客さまから受託した長期間の試験が中断する心配がなくて安心です。これらが継続して使用している大きな理由です。

▶ 大幅な省エネを達成したプラチナスJシリーズですが、実際にお使いいただいているのご感想はいかがでしょう？

前シリーズからの特徴ですが、計装がタッチパネル方式になって、入力を間違わずに試験設定ができるようになりました。Jシリーズでは、USBで試験データを吸い上げられるようになったのも便利でいいですね。先ほどもお話ししましたように、温湿度制御の精度がさらに高くなったと思います。信頼性試験は長時間の運転となるため、省エネは我々にとっても最重要テーマです。今回のJシリーズの大幅な省エネは助かります。今後、装置を入れ替えていくことで、電力使用量を減らす計画です。

▶ 当社についてのご意見やご要望などお聞かせください。

エスペックさんの営業やサービスの方はみなさん朗らかで誠実です。私たちの要望に対して真摯に取り組んで頂けるのが嬉しい。エスペックさんは環境試験装置のNo.1メーカーです。信頼もブランド力もNo.1のエスペックさんだからできる新製品の創出をこれからも期待しています。

沖エンジニアリング株式会社のご紹介

沖エンジニアリング様では、信頼性評価・故障解析、環境試験などの受託・分析を中心とした事業を行っています。宇宙・航空関係から自動車、エレクトロニクス、鉄道など多様な分野で、高度な専門技術をベースとした総合エンジニアリングサービスを展開されています。

■会社概要

社名：沖エンジニアリング株式会社
創立：1973年12月6日
本社：東京都練馬区氷川台



沖エンジニアリング株式会社 試験所内

福島県川内村 農業の再生と雇用の創出に向けて 完全人工光型植物工場 「川内高原農産物栽培工場」が稼働

福島第一原子力発電所から30km圏内に位置する川内村は、東日本大震災による原発事故で全村避難を余儀なくされました。今年4月、完全人工光型の植物工場「川内高原農産物栽培工場」を竣工し、農業の再生と雇用の確保に踏み出しています。水耕栽培ができる完全人工光型植物工場を当社のグループ会社エスペックミックが他社と共同で納入しました。川内村の復興に向けて、植物工場事業を推進された川内村役場・復興対策課の井出課長と遠藤主査にお話を伺いました。



安全な地下水とLEDや蛍光灯を光源に利用 1日当たり8,000株のレタスやハーブなどの野菜が生産可能



復興対策課
課長 井出 寿一様



復興対策課 復興係
主査 遠藤 雄夫様

▶ 今年4月に竣工した「川内高原農産物栽培工場」は、いつ頃から取り組まれたのですか？

〈井出課長〉

ここ川内村は、北から南へ連なる阿武隈高地の豊かな自然に囲まれおり、地下水を使った農業が主な産業でした。震災による原発事故で放射性物質が大気に流され、2011年3月15日から全村避難の日々が続きました。ところが、川内村は線量が低いことがわかり、2012年1月に帰村宣言し、復興対策課を設置して復興に向けての活動を開始しました。まずは除染に着手し農業の再生を検討している時に、ヤマト福祉財団さんの「東日本大震災・生活産業基盤復興再生基金」を知りました。さっそく植物工場事業計画を申請し、2012年12月に助成金3億円を受けることができました。国の復興支援金と村の通常予算を加えて事業に着手しました。

▶ 農業再生に向けて植物工場に着目されたのはどうしてですか？

〈遠藤主査〉

震災前から新しい農業の研究をしており、小型の植物工場や水耕栽培について調査していました。そんな折、震災が起こり、当分は露地栽培の農業はできないと思いました。植物工場は完全に閉鎖された空間なので放射能の影響を受けません。土を使わずに、地下水を利用した水耕栽培で野菜をつくることのできるため、復興事業として取り組みたいと思いました。ちょうど地下水に放射性物質が混入していないデータも出た時期でした。

完全閉鎖型だから 安全な野菜を天候に左右されず安定供給

▶ 川内村は地下水が豊富なのですか？

〈井出課長〉

川内村はもともと浄水施設がない村で、飲料水は地下水です。どこを掘っても地下水が湧き出てきます。震災前から全国規模で「地下水サミット連絡協議会」を立ち上げて、豊富な地下水を守ろうという活動も行っていったほどで、地下水は川内村のシンボルでもあります。

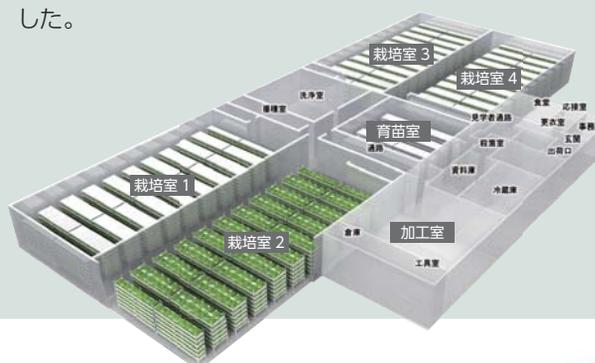


川内村役場

▶ 川内村植物工場の設備の特徴は？

〈井出課長〉

約5,000m²の敷地に約2,500m²の工場を建設しています。人工光源に蛍光灯やLEDを使用して栽培室を4部屋設け、一日当たり8,000株の野菜が生産できます。完全閉鎖型のため外気が入らないこと、季節を問わずに葉物野菜が通年栽培できること、そしておいしい野菜ができることです。複数の応募の中で精査し、エスペックミックさんと三進金属工業さんとの共同提案に決定しました。



- 施設名／川内高原農産物栽培工場
- 所在地／福島県双葉郡川内村大字下川内字松川原11番
- 敷地面積／約5,000m²
- 建築面積／約2,500m²
- 生産能力／日産8,000株
- 雇用人数／25名(2014年度予定)

▶ 一般の農業と最新設備を使う農業との違いに戸惑いはなかったですか？

〈遠藤主査〉

エスペックミックさんは小型の植物工場であるコンテナ式植物工場を持っておられたんですね。まずはこれを使用して、川内村の水を使ってどんな野菜ができるのかを実験し、栽培研修を行うことができました。現在は、第三セクターである株式会社KiMiDoRiが工場運営を行っています。



エスペックミックのコンテナ式植物工場。栽培実験や研修に使用

▶ エスペックミックの植物工場で良かったところは？

〈遠藤主査〉

エスペックミックさんのシステムを採用して良かったことは、30種類以上の野菜が栽培できることです。最近では全国規模で野菜工場が広がり、レタス単体では売れにくい状況です。エスペックミックさんのシステムだと野菜の多品種収穫ができるため、色々な種類の野菜を袋につめて販売することも可能です。これからの販売戦略には有効です。

● フリルレタス



● バジル



● ルッコラ



● イタリアンパセリ



▶ お客さまのご要望に応じた野菜が生産できるということですか？

〈遠藤主査〉

そうです。まだ大きくなる前のベビーリーフがいいというお客さまもおられます。他社のシステムだと単品の野菜を成長した段階でしか収穫できないんです。流通面でも、ベビーリーフならかさ張らずにコンパクトに出荷できます。小さいうちに収穫できるということは、工場の稼働率が高くなり生産性の向上にもつながるんですね。さらに、エスペックミックさんが開発された放射線量連続測定装置で放射能の全品検査ができることも良い点になります。エスペックミックさんのシステムだからお客さまのご要望にあわせて、安全でおいしい野菜を出荷することができると思っています。



放射線量連続測定装置で出荷野菜の全品検査

▶ いよいよ野菜が出荷されましたが、これからの課題をお聞かせください

〈井出課長〉

すでに東京の外食産業さんや郡山の大手スーパーと販売契約を結んでいます。販路の拡大がこれからの課題です。通常2~3年かかる規模のプロジェクトでしたが、エスペックミックさんのご協力があったから計画から実行まで1年という短い期間で進めることができました。



当社が植物工場事業を開始した1987年から現在まで事業を推進しているのが、エスペックミック株式会社環境モニタリング事業部 部長 中村謙治です。南は沖縄から北は北海道、さらには海外までも植物工場のスペシャリストとして各地に赴いています。今回の川内村の植物工場では、少しでも復興のお役に立てることができて良かったと語っています。植物工場の導入や普及に向けて、企業及び各種団体からセミナー講師、アドバイザーなどの要請も多く幅広く活動しています。



エスペックミック株式会社
環境モニタリング事業部
部長 中村 謙治

納入事例紹介

兵庫県加古郡稲美町 株式会社 コープフーズ 様

初めての新工場の開設。ご苦労もあったようですが、多くの方々のご協力を得て貴重な体験ができたこと笑顔でお話されました。



株式会社コープフーズ
新工場開設プロジェクト
統括部長 岡本 孝司 様

お寿司やお弁当、お惣菜などの食品加工・販売の株式会社コープフーズ様は、今年7月、本社および冷凍工場を兵庫県東灘区から兵庫県加古郡稲美町に移転されました。新工場には、稲美町の井戸水を使用して水耕栽培を行う野菜工場を設置されました。エスペックミックの完全人工光型植物工場システムで、一日に300株のリーフレタスが栽培できます。ここで栽培したリーフレタスは、コープフーズ様の90店舗において製造販売するサラダ巻寿司に使用されます。新工場開設を担当された統括部長の岡本孝司様は「稲美町の井戸水は水耕栽培に向いています。野菜工場を導入すると製造コストも下がるので挑戦してみようと思いました」また、「LED照明を使用したり、野菜の生育環境を人工的に造っていますが、野菜工場はまさに農業です。栽培用の水、根や葉の状態まで植物を慈しむ気持ちが必要だと感じています」とお話をいただきました。



本社・第2工場



野菜工場内部

- 社名/株式会社コープフーズ
- 設立/1980年6月2日
- 住所/兵庫県加古郡稲美町六分一1362-5
- 事業内容/食品の製造・販売業

サラダ巻フェアを開催

初出荷のリーフレタスを使ったサラダ巻フェアを開催、同社の90店舗にて販売されました。



CSRマネジメント

エスペックは、コーポレートガバナンス体制の強化や、コンプライアンスの推進、リスクマネジメント、内部統制システムの構築・運用などに継続して取り組むことで、より社会性・透明性・効率性の高い企業を目指しています。

コーポレートガバナンス

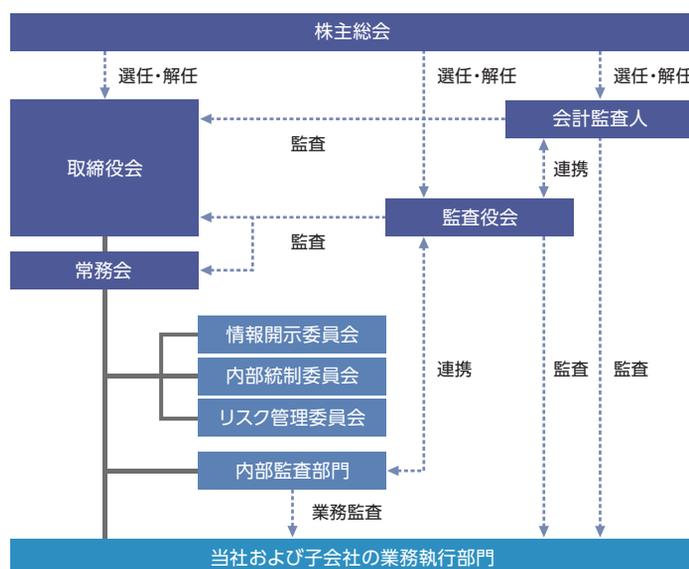
基本的な考え方

企業は人々のさまざまな願いや社会の期待に応えるための役割や機能を果たす社会的な装置 (= 企業は公器) であるという考えのもと、ステークホルダーのみならずとより良い関係を築き、より高い価値を提供することで「価値交換性の高い企業」を目指しています。この考えを踏まえて事業活動を行うにはコーポレートガバナンスの確立は不可欠であり、コンプライアンスの確保と、透明性・効率性の高い経営体制の確立を目指しています。

コーポレートガバナンス体制

当社は監査役会設置会社であり、監査役は毎月開催される取締役会や重要会議体に出席し、適正な監査を行っています。2013年6月末現在、取締役は社外取締役1名を含む7名、監査役は社外監査役2名を含む4名で構成しています。取締役の任期は1年とし、経営責任の明確化を図っています。また、社外取締役1名を独立役員として東京証券取引所に届け出ています。

■ コーポレートガバナンス体制



コンプライアンス

基本的な考え方

当社は、順法だけでなく、社会規範を尊重し、社会の常識や道徳観・倫理観に反しない企業活動を心がけています。また活動を行う国や地域によって法律上の格差がある場合には、より社会性の高い内容を定めた法律の適用を自らに課すこととしています。こうした考え方は、THE ESPEC MINDの『宣言』や『経営理念』などに明記されています。



THE ESPEC MIND 冊子

「エスペック行動憲章・行動規範」の浸透・周知徹底

「エスペック行動憲章・行動規範」の社内への浸透・周知徹底を図るため、ホームページに掲載し、社内外に公表しています。また、定期的に研修を行うとともに常時携帯するための小冊子を配布しています。

コンプライアンス通報窓口の設置

「コンプライアンス通報規定」を制定し、社員はもとより、お客さまや取引先さまなど社外の方からも広く通報を受けるコンプライアンス通報窓口を社内外に設置しています。通報を行ったことを理由とする通報者への不利益な取り扱いは一切行いません。これにより、不正行為等の未然防止および早期発見・解決を図り、コンプライアンス体制のさらなる強化に努めています。

インサイダー取引に関する教育

当社は「内部者取引(インサイダー取引)管理規定」を制定し、違法なインサイダー取引の未然防止に努めています。2011年度は、管理職を対象にインサイダー取引に関する教育を実施しました。東京証券取引所作成の教育用資料を用い、基本的な知識の習得を図るとともに当社の関連規定の再確認を行いました。2012年度には、管理職が講師となり部門ごとに教育を実施し、ほぼ全員が受講しました。

リスクマネジメント

リスク管理体制

当社では、全社的なリスクの識別・評価は、所管部門や検討部会で実施し、その結果をリスク管理委員会で審議・承認しています。

個別リスクについては、対応方法を「リスク管理規定」「危機対応規定」等に定めるほか、必要に応じて取締役会や関連会議体で評価・検討し、所管部門で適切・迅速に対応します。

情報管理体制

情報管理体制については、情報セキュリティの確保と情報の有効活用を目的に、情報管理規定として「情報セキュリティ基本方針」「情報セキュリティ管理規定」「個人情報保護規定」を制定し、管理の徹底を図っています。

内部統制システムの構築・運用

「意思決定および業務執行が、法令・定款・社内規定を順守し適正に行われるために必要な体制・制度を整備し、社会やステークホルダーに信頼される会社であり続けること」を内部統制に関する基本方針として定めています。

なお、2013年3月期の外部監査において、内部統制の運用評価は適切で、不備・重要な欠陥がない旨の監査結果を得ています。

反社会的勢力排除に向けた取り組み

「エスプレック行動規範」において、反社会的勢力排除に向けた基本方針として、社会の秩序や安全の維持に脅威を与え、健全な経済活動を阻害する反社会的勢力や団体には毅然とした態度で臨み一切の関わりを持たず、不当な要求を受けた場合も金銭等による妥協をしないことを定めています。

また、対応統括部門および不当要求防止責任者を設置するとともに、大阪府企業防衛連合協議会に加盟し、警察や他の加盟企業と連携し、情報の収集・交換に努めています。

地震対策

当社では、大規模な地震が発生した場合に備え、事業の継続と社員の安全を確保するため、「危機対応規定」「地震対応手続」を設定し、緊急時の対応を社員に周知しています。すべての国内事業所に非常食などの災害備蓄品を配備するとともに、定期的に防災訓練を実施しています。

2012年度は、平常時の安全確保対策として全事業所で防火・防犯・防災に関する自己点検を行いました。また、社員の緊急連絡網を整備するとともに、巨大地震発生時の安否確認訓練を2回実施し、全事業所、約6割の社員が参加しました。

お客さまとのかかわり

エスペックでは、お客さまのニーズに的確にお応えし、お客さまからの信頼を高めるために、さまざまな取り組みを行っています。

製品・サービスの品質保証

「お客さまにとって強い商品を提供する」を基本方針に製品とサービスの品質向上に取り組みました。

品質方針

当社は、お客さまが品質保証活動で使用される環境試験器を提供しており、当社製品のクオリティがそのままお客さまの製品のクオリティに直結していること、また、その重責を担っていることに、私たちの存在意義があると考えています。当社は、「お客さまへ安全、快適、確実に使命を果たす、より確かな製品とサービスの提供を行う」を基本理念として掲げ、グローバルカスタマーの期待に応える高品質製品の実現に向けて取り組んでいます。

品質保証体制

企業のグローバル化に対応すべく、国内外においてEQA (ESPEC Quality Assurance) と呼ばれる独自の品質保証体制を確立し、活動を行っています。

また、1993年に国内他社に先駆けて品質国際規格「ISO9001」の審査・登録を行い、その後2008年ISOの改正を受けて、品質保証体制の継続的改善を実施し、エスペック製品のさらなる品質向上に努めています。

2012年度は市場不良のない「お客さまにとって強い商品を提供する」を基本方針に、各部門の連携を密にした品質保証活動により、製品とサービスの品質向上に取り組みました。クオリティの高い製品の提供とグローバルな品質保証体制により、お客さまの信頼・要望にお応えしています。

QMC活動

2006年度より、これまで生産現場を中心としたQC活動を、日常業務の中から顧客満足向上・付加価値創造の実現を目指す「小集団活動」へと転換し、QMC (Quality Management Circle) 活動として実施しています。QMC活動は、生産部門だけでなく、営業・スタッフ部門から開発部門までを対象とした全員参加型の小集団活動であり、「全てはお客さまのために」という視点で、全社をあげて取り組んでいます。

2012年度は、108サークルがさまざまなテーマで

改善活動に取り組み、品質改善やコスト削減、業務効率の向上など大変高い成果を得ることができました。

お客さまへの満足に向けて

**お客さまのお役に立つよう
価値ある情報をお届けしています。**

エスペック信頼性セミナー2012の開催

お客さまへの信頼性試験における有益な情報を提供する活動として、エスペック信頼性セミナー2012を開催しました。東京・大阪・愛知の3会場合わせて236名のお客さまに参加いただきました。東京会場では、当社が開発した二次電池の安全性評価に使用する装置をご覧いただきました。

<主なテーマ>

- 二次電池の基礎と安全性評価方法について
- パワー半導体の信頼性と試験技術について



エスペック信頼性セミナー2012 (2012年12月7日開催・東京会場)



二次電池評価用装置を紹介

信頼性インハウスセミナーの開催

お客さまからの要請によるお客さま先での信頼性セミナーを行っています。当社の信頼性分野における長年の経験とノウハウを活かし、信頼性の基礎から応用まで幅広い内容のセミナーを開催しています。2012年度は国内外合わせて11カ所で開催し、約200名のお客さまに受講いただきました。

展示会にて二次電池評価用の装置を紹介

リチウムイオン電池の信頼性や充放電特性を確認する新製品「アドバンスバッテリーテスター」を国内外の展示会に出展しました。今後ますます需要の高まるリチウムイオン電池の課題解決に貢献できる装置を、お客さまの目を通してご確認いただきました。



東京ビックサイトで開催したEVEX 電気自動車開発技術展2012 (9月19日～21日)に出展

カスタマーサポート

お客さまを的確にサポートするためにさまざまな活動を行っています。

カスタマーセンター

当社は全国のお客さまや代理店さまのお問い合わせにダイレクトにお応えするカスタマーセンターを設置し、技術に関する問い合わせやお客さまのニーズに合わせた製品紹介、トラブルシューティングなど、年間約1万件を取り扱っています。

また、オペレータの品質向上及び均一化を図るためモニタリングによる教育を定期的実施しており、お客さまのお問い合わせに対して提案ができるようスキルアップを図っております。代理店さま向け情報については随時、新規登録や改訂を行いタイムリーな情報提供に努めています(年間約150件)。

予防保全とメンテナンス

お客さまに安心して製品をご使用いただくため、全国に16拠点のサービスネットワークを構築し、フィールドでのサービスデータに基づいた最適な予防保全活動と24時間受付サービスを行うなど、お客さまに安心・安全をお届けしています。

また、新製品に搭載したバックトレース機能を使用したネット診断サービスを開始し、診断の精度を高めることで試験装置のダウンタイム低減を図っています。

さらに、フィールドエンジニアに対するアンケート調

査・分析を定期的実施し、フィールドエンジニアの教育や業務改善に反映させ、アフターサービスの向上に役立てています。製品故障時の修理対応速度として、1日以内完了80%を目標(2012年度実績83.3%)に、これからも迅速なサービス対応に取り組んでまいります。

Eco-Checkサービス

2012年6月1日～8月31日の期間、当社のフィールドエンジニアが、全国のお客さまを訪問し、装置の無償点検や清掃、電力測定などを行うEco-Checkサービスを実施しました。装置点検後は、装置の状況説明と合わせて、装置の使用時における省エネ方法について説明しました。3カ月間で約5000台を点検したEco-Checkサービス。今後も継続し、お客さまからの信頼を高めてまいります。

国内および海外にて代理店さま・販売店さまを対象に技術研修会を開催

世界中のお客さまが安心して当社製品をご使用いただけるよう、国内外の代理店さま・販売店さまを対象に技術研修を実施しています。お客さまの試験が中断しないよう装置のメンテナンスが的確にできるよう、研修会を毎年実施し、お客さまへのサービスの向上に努めています。



日系企業の東南アジア進出をサポート

「ASEANサポートデスク」の設置

日系企業の東南アジアでの事業活動をサポートする専門部署「ASEANサポートデスク」を設置し、2013年6月からサービスを開始しています。当社の製品・サービスはもちろん輸出入についてのご相談など日本語で対応します。東南アジアで活動されるお客さまが安心してご利用いただけるようサポートの強化に取り組んでいきます。

従業員とのかかわり

「エスペック行動憲章・行動規範」において、基本的人権の尊重、差別的待遇の排除、プライバシーの保護、雇用における機会均等および人権侵害行為への対処などを明記し、周知徹底を図るとともに、より良い職場環境づくりに取り組んでいます。

人事方針・制度

「役割と成果」「選択と自己責任」を基軸とした自己実現と働きがい創出する人事制度の構築に努めています。

人事方針

会社の盛衰は「人」で決まります。会社にとって「人」が中心であり、「人」重視の経営こそが会社発展の原動力です。「社員が主役の会社でありたい」というのが基本的な考え方です。

また、高いモチベーションと品格を兼ね備え、チャレンジ精神に富む良質な人材の開発・育成に取り組むことで、「社員能力・活力の最大化」を目指していきます。

コミットメントセッション(目標管理面談)の実施

全社員を対象とした目標管理面談「コミットメントセッション」を定期的に行っています。社員一人ひとりの目標設定や業務上の課題、今後のキャリアビジョンなどについて、本人と上司が話し合うことで、部門におけるベクトル合わせとコミュニケーションの円滑化を目指しています。

コース選択制度(勤務地限定選択制度)

家庭の事情や価値観・労働観により異動を限定的にすることを望む社員に対し、勤務地限定の選択肢を付与する制度です。2012年3月末現在におけるコース選択状況は「転勤あり(海外含む)」が74%、「勤務地域限定」が26%となりました。

社員表彰の実施

1991年より毎年、特許・実用新案の取得や行政、加入団体等からの表彰など、精励・功労の著しい社員を他の範としてたたえる社員表彰を行っています。

自己啓発教育支援

社内講師による自己啓発教育講座、奨励金支給制度(外国語学習支援、通信教育、推奨資格)など、社員が「伸ばしたい能力」に合わせた教育を受けられるよう支援しています。2012年度は、自己啓発教育講座(11講座)を163名が受講し、外国語学習3名・通信教育93名・推奨資格205名が奨励金支給制度を利用しました。

グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)

国際的なビジネスに対応できる中核的人材を育成するため、「グローバル・トレーニー・プログラム(海外研修制度)」を設けています。この制度は、社員を海外グループ会社に一定期間派遣し、現地での実務体験を通してグローバルな考え方や幅広い見識を身に付けるものです。2012年度は、アメリカ1名(長期)、中国1名(短期)を派遣しました。

ラウンドアップシステム(研修会)の実施

2012年度も全社員を対象にラウンドアップシステムを実施しました。ラウンドアップシステムとは、企業のベクトルを一致させる重要な経営システムです。社員一人ひとりが企業理念の理解を深め、全社員で共有することは今や企業にとって大きな課題の一つです。企業における理念の重要性にいち早く気づき、経営システムの一環として、継続して毎年実施しています。

2012年度も、管理職や一般社員、新入社員といった各層ごとのプログラムに、世代を越えた中核的人材を集めたプログラムなど、多彩な内容で実施されました。



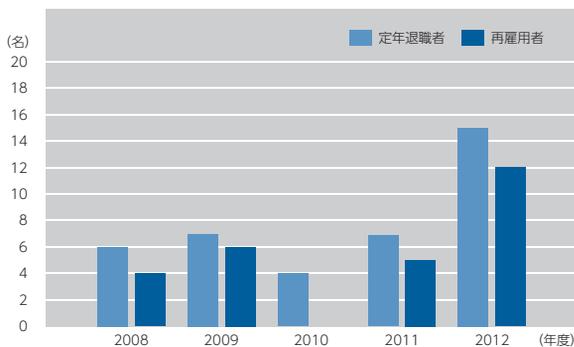
多様性の尊重

年齢や性別など社員一人ひとりの多様性を尊重した職場づくりに取り組んでいます。

定年退職者の再雇用

知識・知恵・技能の伝承ができるように定年退職者の再雇用制度を導入しています。再雇用制度によって、65歳までの雇用を確保するようにしています。

■再雇用者数



障がい者の雇用

障がいのある方が9名勤務しています(2013年3月末現在)。障がい者を、その能力や適性に応じてできるだけ多く雇用できるように、今後も継続して職場環境の改善や職務の見直しなどに取り組めます。

女性の管理職登用

管理職は男性が103名、女性が3名です(2013年4月1日現在)。女性管理職比率は約3%ですが、管理職登用の条件については、男女雇用機会均等法を順守し、性別による格差は一切設けていません。そのため少しずつではありますが、管理職を目指す女性が増加傾向にあります。女性管理職の増加が組織の活性化につながるよう、計画的な育成と登用を行っていきます。

快適な職場環境づくり

社員の安全・健康に配慮した快適で働きやすい職場環境の維持・向上に取り組んでいます。

ワーク・ライフ・バランスマネジメント

2006年度より改正労働安全衛生法を拡大適用し、単月の時間外労働時間が80時間を超える社員に対して医師による面接指導を義務づけています。また、家庭と仕事のバランスを考慮し、有給休暇計画取得制度やフレックスタイム制度を導入しています。

さらに、次世代育成支援策の一環として、正社員だけでなく契約社員においても育児休業や短時間勤務制度の活用を推進しています。2013年3月末までに延べ77名が育児休業を取得し、延べ42名が育児短時間勤務を選択しており、2012年度では4名が育児休業、4名が育児短時間勤務を利用開始しました。

セクハラ・差別行為に関する連絡・相談窓口

セクハラやその他の差別待遇・いやがらせ行為等について、社員からの連絡・相談を受け付ける窓口を設置しています。

メンタルヘルスケアの推進

心の健康問題への対策として、社員とご家族を対象としたメンタルヘルスケア制度を導入しています。WEB上のストレス診断で毎月自己の状況を確認するほか、eラーニングによるメンタル知識の向上を図り、自己予防を推進しています。また、電話やWEB、面接による相談窓口を設置しています。

2012年度は、昨年度の管理職向け研修に引き続き専門職・専任職およびリーダーを対象としたメンタルヘルス研修を実施しました。外部講師を招き、部下との信頼関係の構築やコミュニケーションの取り方など部門内のメンタルヘルスマネジメントについて教育を行いました。

従業員とのかかわり

安全衛生活動

主要事業所ごとに安全衛生委員会を設置し、委員による事業所内の安全パトロールを行うなど、労働災害の撲滅、労働環境の改善に努めています。また、交通事故防止の対策として、安全運転適性検査の実施や安全運転講習会による啓発活動に取り組んでいます。

2012年度の当社の休業労働災害発生件数は0件で、連続無災害日数(不休災害を除く)は942日となりました(2013年3月末現在)。

■安全衛生活動の目標と実績

	目標	2010年度	2011年度	2012年度
労働災害(不休災害を除く)	0件	1件	0件	0件
健康診断受診率	100%	99%	99%	99%
車、バイク、自転車による人身事故	0件	5件	6件	6件
車、バイクによる自責事故	0件	23件	20件	19件

福利厚生充実

社員の多様なニーズへの対応や、より公平な福利厚生サービスの提供を目的として、自身で必要なサービスを選択する選択型福利厚生制度「カフェテリアプラン」を導入しています。育児や介護、学習、旅行など多様なメニューから割引サービスなどを受けることができます。

また、社員の資産形成を支援するため、財産形成貯蓄制度では、社員の積立額に対して定率を奨励金として、従業員持株会では、会員の拠出金に対して定率の奨励金を会社より支給しています。加えて、2012年度は、外部講師を招き、公的年金からの受給や、退職後のセカンドライフに必要な資金、将来への備えなど、社員のライフプランに役立つセミナーを開催しました。

労使関係

当社の労働組合はユニオンショップ制をとっており、組合員は643名、組合員比率は75.3%となっています(2013年3月末現在)。労働組合とは労働協約のもと相互信頼に基づいた健全な労使関係を維持し、対等の立場でさまざまな労使課題に取り組んでおり、毎月「労使協議会」を開催し、情報・意見交換を行っています。

従業員とのコミュニケーション

会社と従業員の双方向のコミュニケーションにより、良質な企業文化の構築に取り組んでいます。

社長メッセージ

社内ホームページ上に、社長メッセージを定期掲載しています。社長の考えや戦略の進捗などを全社員にタイムリーかつダイレクトに伝えることで、経営層と現場のベクトル・価値観の共有化を図っています。

社内報「プログレッシブ」の発行

全社員への企業理念THE ESPEC MINDの理解や浸透、情報の共有を目的とした社内報「プログレッシブ」を定期的に発行しています。全社員を対象としたコミュニケーション誌として、さらなる充実化を図っていきます。



ダイレクトコミュニケーション

2010年度より経営層と一般社員との対話を行う「ダイレクトコミュニケーション」を実施しています。社長をはじめとする全役員が、全国の事業所に出向いて、一般社員から会社の将来や自分たちの仕事についての要望や質問などを聞いています。うちとけた雰囲気の中、経営層と一般社員との間で活発な意見が交わられています。

取引先さまとのかかわり

製品・サービスの品質向上において、取引先さまとの信頼関係が重要であると考えています。そのために、エスペックでは、取引先さまとの長期的かつ発展的な関係づくりに力を注いでいます。

取引先さまとのより良い関係を目指して

さまざまな活動を通して、
取引先さまとの信頼関係の構築に
取り組んでいます。

基本方針

当社は取引先さまと良好なパートナーシップを構築し、相互発展できる関係づくりを重視しています。取引においては、関係法令・法規を順守し、公正・公平な取引関係のもと、グローバルな観点で国内外から必要な資材・サービスを適切な品質・価格・納期、環境への配慮を含めて総合的に判断し調達していきます。

法令の理解・順守のために

資材調達において「下請代金支払遅延等防止法（下請代金法）」の順守を徹底することを目的としたさまざまな取り組みを行っています。

2012年度は、調達部門以外の関係部門における下請法自主チェックリストを新たに作成すると共に、資材部内だけでなく、関係部門への自主監査を実施し、懸案事項に対する必要な措置を講じることで、違反行為を未然に防ぐ活動を重点的に行ってきました。また、これまで継続的に実施してきた下請代金法講習会を購買担当者だけでなく、取引先さまと関係のある部署・グループ会社の責任者にまで対象を広げ、下請取引を適正に行える体制の強化に取り組みました。

事業継続マネジメントの取り組み

地震や火災といった自然災害や取引先さまの倒産などの不測の事態が生じた場合に、お客さまへのサービスに対する影響を最小限にするための取り組みを行っています。当社資産の金型の現物確認や、取引先さまの経営状況等の確認を定期的実施しています。また、東日本大震災時の反省を踏まえ、欠品が生じると生産現場への影響が大きい部品を重要管理部品として選定し、災害時にも迅速に部品供給状況が確認できる仕組みを構築しました。

「エスペック共栄会」の運営

1981年より取引先さまと当社との相互信頼の構築、および共存共栄を目的とした「エスペック共栄会」を設置し、40社の取引先さまに参画いただいています（2013年3月末現在）。2012年度の活動内容としては、工場見学や講演会、取引先さまの実務担当者と当社購買担当者との交流イベント、QCサークル活動に関する勉強会を実施しました。

「エスペック優良取引先表彰制度」の実施

多大なご協力を賜った取引先さまに対して、感謝の意を表する「エスペック優良取引先表彰制度」を導入しています。

2012年度は、社長賞1社・優秀賞2社・特別賞1社の取引先さまを表彰させていただきました。

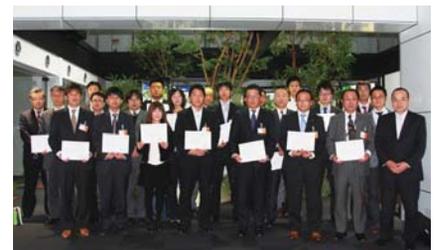


優良取引先表彰

グリーン調達の実施

2000年に「エスペックグリーン調達基準書」を制定し、資材調達先に対するグリーン調達を実施しています。グリーン調達取引先の認定基準には「ISO14001」あるいは「エコアクション21」もしくは「公的機関・行政の行っている環境活動」の認証取得または「エスペック・エコ・スタンダード」による環境保全活動の実施を求めており、当社からも講習会や現地指導などの支援活動を行っています。

2012年度は「エスペックグリーン調達基準書」の見直しを行うと共に、RoHS規制対応強化等、認定取引先さまのグリーン調達対応におけるレベルアップを図るための活動に取り組んできました。その結果、当社登録部品点数の93%を占める合計123社の取引先さまがエスペックグリーン調達取引先の認定基準を満たしています。



グリーン調達認定式

株主・投資家さまとの かかわり

エスペックは、「ステークホルダーへの実直なアカウンタビリティ」を経営理念に掲げ、常に誠実・正直に説明責任を果たすことをポリシーとしています。IR活動においても適時適切な情報開示や説明会・IRツールの充実などに取り組んでいます。

株主・投資家さまとのコミュニケーション

迅速かつ適切な情報開示を経営の重要な責務と認識し、良好なコミュニケーションの醸成に努めています。

情報開示の方針・体制

会社法、金融商品取引法等関係法令、証券取引所の定める適時開示規則等に従い、適切な情報開示に努めています。また、同規則に該当しない情報についても、当社を理解していただくうえで役立つ情報は、積極的かつ公平に情報を開示していきます。

社内体制としては、情報開示委員会を設置し、任意開示情報も含めた開示情報の内容・時期・方法などを審議することで、適時適切な情報開示を実施しています。また、情報開示を行う者（スポークスマン）を限定することで情報の一元化に努めるとともに、ホームページへのタイムリーな情報掲載により、株主・投資家さまへの公平かつ迅速な情報開示を行っています。

開かれた株主総会の実現に向けて

株主総会を株主さまと直接対話のできる貴重な機会であると考え、より多くの株主さまにご参加いただけるよう、集中日を避けて開催しています。

2012年度は6月26日に開催し、125名の株主さまにご出席いただきました。総会終了後には、株主さまと役員が親しくお話をする時間を設けました。



株主総会

機関投資家・証券アナリスト向け会社説明会

機関投資家・証券アナリストの方を対象とした決算説明会を実施しています。説明会には社長と取締役が出席し、業績や戦略などについて説明しています。

また、個別ミーティングにつきましても東京・大阪を中心に随時行っており、2012年度は約100回実施しました。



決算説明会

日経IRフェアへの出展

より多くの個人投資家のみなさまに当社を知っていただくため、2012年度、東京ビッグサイトで開催された日経IRフェアに初めて出展しました。ブースでの説明に加え、社長による会社説明会を開催し、ブース来場者と説明会を合わせて400名以上の方々にご来場いただきました。今後も個人投資家のみなさまと情報交換させていただく機会を積極的に設けてまいります。



IRツールの充実

株主通信やファクトブック、ホームページのIRサイトなどのIRツールの充実に継続的に取り組んでいます。

IRサイトでは、決算説明会の資料や各種財務データ、株主・株式情報など、みなさまに当社をご理解いただくために役立つ情報を積極的に掲載しています。また、IRサイトに新たな決算情報やニュースリリース、IR資料などを掲載した際に、国内および海外の投資家さまにタイムリーにお知らせする情報配信活動も行っています。

IRサイトに対する社外評価

当社のIRサイトは、日興アイ・アール社が主催する「2012年度全上場企業ホームページ充実度ランキング調査」において、「優秀サイト(総合ランキング)」として認定されるなど、社外より高い評価をいただいています。



■ IRサイト <http://www.espec.co.jp/corporate/ir/ir.html>

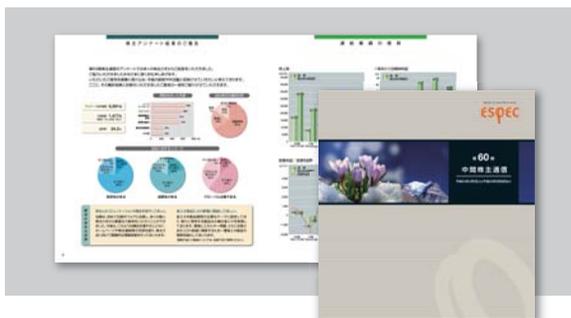
経営へのフィードバック

市場からの貴重な意見・評価を経営にフィードバックし、さらなる企業価値の向上に取り組んでいます。

株主・投資家さまアンケート

当社は、会社説明会開催時などにおいて投資家さまからご意見をいただくほか、株主通信の送付に合わせて株主さまを対象としたアンケートを実施しています。また、この株主通信のアンケート結果については、中間株主通信において報告しています。

2012年度は、1,477名の株主さまからご回答をいただきました。

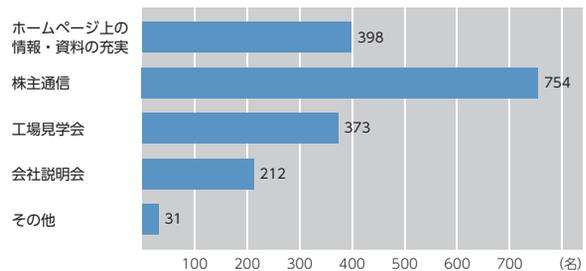


株主アンケート報告(中間株主通信)

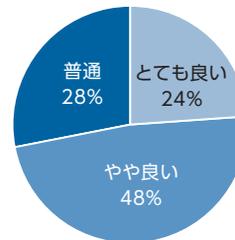
■ 株主アンケート結果(2012年6月実施)

回答者総数:1,477名(男性:75% 女性:25%)
回答率:24.2%

〈今後充実してほしいIR活動〉(複数回答可)



〈株主通信の評価〉



市場評価のフィードバック

会社説明会や株主通信送付時に行ったアンケートの分析結果、および個別ミーティングで伺ったご意見などを「IRレポート」としてまとめ、随時発行しています。この「IRレポート」は取締役会で報告を行っており、市場の評価を社内にフィードバックすることで、課題を浮き彫りにし、今後のIR活動や経営の質の向上に努めています。

株主さまへの還元

継続性と配当性向を勘案し、株主さまへの配当を実施します。

株主さまへの還元

当社は、株主のみなさまへの利益還元を経営の重要課題の一つと認識するとともに、永続的な企業価値の向上が株主価値向上の基本であるとし、継続性と配当性向を勘案して配当を決定することを基本方針としています。2013年3月期の年間配当金は15円とさせていただきます。

社会とのかかわり

(社会貢献)

エスペックは「良き社会の一員」として、積極的に社会貢献活動に取り組むとともに、一人ひとりがその意義を認識し、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでいます。

社会とのコミュニケーション

さまざまな活動を通じて
社会のみならずと交流を持ち、
相互理解に努めています。

公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」

創業50周年となる1997年、自らの社会的責任を全うする事業として公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」を設置しました。

地球環境保全に関する調査研究や技術開発、緑化の教育・啓発などに対し資金援助を実施しており、これまでに151団体に対し、総額7,822万円の助成を行いました。2012年度は、応募数57件の中から、13件のテーマについて助成しました。



第15回公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」授与式

■ 研究テーマの紹介 (13テーマより抜粋)

- 1 スケルトン・インフィル型建築による漁村復興計画に関する基礎研究
～東日本大震災における津波被害を受けた漁村を対象にして～
- 2 砂漠緑化に資する砂桃からの有用材料の創出
- 3 黄砂粒子上で二次生成する多環芳香族炭化水素誘導体による越境大気汚染と健康影響
- 4 水田除草ロボットの実用化に向けた応用技術の検討
- 5 水中高電圧放電を利用した都市鉱山より回収した廃基板のリサイクル技術の研究
- 6 ゼロ・エネルギー低温貯蔵庫の開発

エスペックみどりの学校



当社は、エスペックみどりの学校を開校し、地球環境のことを考えるリーダーの養成に取り組んでいます。全国各地でセミナーやイベントなどを開催するこの学校は、環境教育推進法に基づく人材認定等事業です。

● 森づくりのリーダー養成セミナー

2011年度より「エスペックの森[※]」を研修の場として、「エスペックみどりの学校・命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」を関西学院大学の協賛を得て実施しています。本セミナーは、座学と実習で構成したプログラムで春・夏・秋・冬の年4回開催しています。関西学院大学・総合政策学部の学生を中心に、2012年度は延べ49名が受講しました。

※エスペックの森：神戸R&Dセンター内敷地に在来の苗木を植樹し、育てた森



関西学院大学・総合政策学部の学生
久野武元教授(写真右)

どんぐり採取の実習

「命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」に協賛

関西学院大学総合政策学部は、「自然と人間の共生、人間と人間の共生」という理念の下で、複雑かつ高度化した現代社会に潜む諸問題を発見し、問題解決および政策立案能力を持った人材を養成することを目的としています。エスペック様のみどりの学校「命を守る森づくり推進リーダー養成セミナー」では、森と人間文化、森のCO₂固定や温度制御機能を座学として学ぶとともに、神戸R&Dセンターに造られた自然再生の森に入って実習することができます。キャンパスではない場所で学ぶことは学生にとって、深く印象に残るでしょう。このような体験が、将来社会にでて地球規模の課題を目の当たりにするとき、身近な事情から、問題点を見つけ解決策を探る糸口になることを期待しています。

関西学院大学
総合政策学部

元教授 久野 武



●宮城県気仙沼市で「みどりのカーテン」づくり

昨年に引き続き、2013年5月18日・19日の2日間、気仙沼市唐桑町で「みどりのカーテン」づくりを実施しました。社員ボランティア21名が昨年と同じ唐桑町の5カ所の仮設住宅と幼稚園・小中学校など約110戸にゴーヤ苗を植え付けました。この活動は、今後も継続していきます。



小原木中学校仮設住宅の住民のみなさんと社員ボランティア

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭に参加

2013年6月9日、岩沼市で「千年希望の丘」植樹祭が開催されました。約4,500名のボランティアが参加し、約30,000本の植樹が行われました。当社社員も15名が参加しました。「千年希望の丘」は、震災で発生した瓦礫（再生資源）と津波堆積土を活用して築造した丘に植樹した緑の防潮堤です。津波の威力を減衰・分散させる機能を持たせ、災害時には避難場所になり、平時には、防災教育や震災記憶の伝承の役割も担います。震災から受けた数々の教訓を千年後の子どもたちに残していこうとしています。植樹指導は、「いのちを守る森の防潮堤づくり」を提唱された植物生態学者の宮脇昭先生（横浜国立大学名誉教授）のもと当社グループ会社のエスペックミックが協力しました。



植樹指導をされる
横浜国立大学名誉教授の
宮脇昭先生

インターンシップの受け入れ

●就業体験活動協力で「感謝状」

京都府長田野工業団地内の福知山工場では、地域社会に貢献出来る人材育成を目的とした就業体験活動を受け入れています。2012年7月、長年にわたるキャリア教育推進の協力に対して、京都府教育委員会から「感謝状」が贈られました。



●エスペックミックで自然環境の大切さを体験学習

エスペックミックでは、2001年より郷土学習訪問を受け入れ、自然環境の大切さを植物を通して学んでもらっています。また、植樹祭への参加、植生調査や植物工場の野菜栽培を学ぶなど、実際の業務も体験してもらっています。2012年度は、中学・高校・大学の学生13名と大阪府雇用創出事業の研修生12名を受け入れました。

上海エスペックが中国・西安市の陽坡小学校を支援

1986年に設立した合併会社上海エスペックが、昨年、西安市の陽坡（ヤンポー）小学校に寄付を行いました。陽坡小学校は、中国内陸部の西安市から車で1時間半ほどの山間部にある全校生徒52名の小さな小学校です。生徒たちは学校に下宿しながら日々勉強しています。今回は、食堂、娯楽室棟およびトイレの新築、校庭のコンクリート化を支援しました。2013年6月5日には、陽坡小学校で竣工落成式が行われ、上海エスペックの歴代の董事長ら関係者が参加しました。今後5年間は、生徒の食費や制服の補助、優秀生徒の奨学金などを継続していきます。



歌や踊りなどの歓迎を受けました

環境マネジメント

エスペックでは、環境への取り組みを企業経営の最重要課題の一つと位置づけ、継続的に環境マネジメントに取り組んでいます。

環境経営の基本方針

当社は、環境宣言「エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである」に基づき、真摯に

環境保護・保全・改善に取り組んでいます。

1996年4月に、全社環境基本方針を定め、以降世の中の動向、ステークホルダーのみなさまからの要請、自社の活動実績を踏まえ、改訂を重ねています。

エスペック環境基本方針

環境宣言

エスペックは、かけがえのないこの地球を決して傷つけない。
単に環境に負荷をかけず、素晴らしいサービスを提供するか、という範囲にとどまってはならない。
いかに環境に役立つか、という視点こそエスペックたるゆえんである。

基本理念

エスペックは、環境保護・保全・改善が企業経営の最重要課題のひとつであることを認識します。
よって、エスペックは、以下の方針に基づき、地球温暖化の防止、資源循環の促進、生物多様性の保全ならびに環境への汚染防止に努めるとともに、環境マネジメント活動、製品・サービスの継続的改善を図ります。
そして、環境試験装置、電子デバイス装置などの製造、販売、メンテナンス、及び受託試験の提供で、低炭素技術などを開発されているお客さまに貢献する企業となることを目指します。

基本方針

1. 地球温暖化防止への貢献を目指し、技術開発、製品及びサービスの開発を行い、お客さまに提供します。
2. 生物多様性保全に関する研究・教育への支援と啓発を通して、地球環境保全に貢献します。
3. 事業活動・製品・サービスの有害物質の管理やグリーン調達によって、環境への汚染防止に努めます。
4. 企業活動にて発生する排出物と製品の3R(リデュース・リユース・リサイクル)に努めることによって、循環型社会の実現に寄与します。
5. 設計・製造・販売・メンテナンス・事務活動における環境負荷低減によって、地球環境保全に貢献します。
6. 環境関連法規制ならびに組織が同意したその他の要求事項などの遵守はもとより、必要に応じて自主基準を設定し、環境リスクマネジメントに取り組みます。

これらを実現するために、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的・環境目標を設定し活動するとともに、環境マネジメントシステムを定期的に見直します。

2013年4月1日

代表取締役社長

石田 雅昭

●この環境方針は組織で働く全ての人に周知するとともに、社外に公表します

環境マネジメント推進体制

2012年度は、環境目標を12項目設定し、目標達成に向けて全社一体となり推進しました。

ISO14001の認証取得

当社は、1996年の「環境管理」導入後、事業所単位での環境マネジメント活動と、ISO14001認証取得を積み重ね、継続して環境ガバナンスの強化を図ってきました。現在、5社27事業所で環境マネジメント活動を推進しています。



■ 環境マネジメントシステムの審査登録状況

社名	環境マネジメントシステム	取得年月日
エスペック株式会社	ISO14001	1996年12月26日
エスペックテクノ株式会社 (現・エスペックテストシステム株式会社)	ISO14001	2003年3月12日
エスペック九州株式会社	ISO14001	2004年8月4日
上海愛斯佩克環境設備有限公司	ISO14001	2004年9月8日
エスペックミック株式会社	エコアクション21	2005年4月27日

全社環境管理委員会

環境マネジメント活動を推進する母体として、1996年4月から全社環境管理委員会を設置しています。委員長には社長、副委員長には環境管理担当役員が就任し、全社共通の目標管理、各種案件の審議などを行っています。ここでの決定が、それぞれの会社、事業所、事業部に展開され、活動が推進されます。2011年度から2013年度までの第5次環境中期計画では、環境目標の中でも特に、CO₂排出量削減を中心においた環境マネジメント活動を行いました。

環境啓発活動

環境関連行事の開催を通じて、社員の環境啓発に取り組んでいます。

エスペック環境ウィーク

環境保全・改善に対する意識の高揚を目的として、6月5日の「世界環境デー」を含む週を「エスペック環境ウィーク」に設定しています。全従業員、取引先さま、ならびにそのご家族などを対象に、環境啓発に関わるさまざまな取り組みを行っています。

毎年、全社環境大会の開催および「環境功労賞」「環境ポスター・絵はがきコンテスト」などの各種表彰や地域清掃活動などを実施しています。

全社環境大会

環境啓発の一環として「エスペック環境ウィーク」に、全社環境大会を開催しています。従業員および主要な取引先さまの方々、約100名が参加し、社長よりエスペックの製品・サービスを機軸とした環境経営についての発表と、外部講師による講演を行いました。



全社環境大会

環境社会検定試験 (eco検定) の取得奨励

幅広い知識をもって環境問題に取り組む人づくりを目的としたeco検定の取得を奨励しています。2012年度は、管理職のほぼ全員、正社員の約60%が合格しています。

環境マネジメント

2012年度・報告

2012年度は、2011年度より開始した第5次環境中期計画の2年目でした。「製品・サービスを機軸とした環境経営」をより一層強化・推進し、「地球温暖化防止」に貢献するCO₂排出量削減目標を達成しました。

また、生物多様性保全への取り組みとして、設立から15年

間継続している公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」は、累積151団体に対し、総額7,822万円の助成を行いました。さらに、「環境教育等促進法」に基づく「人材認定等事業」である「みどりの学校」では、受講生が累積1,173名に達しました。

2012年度 目的・目標

	目的・目標テーマ	環境目的 (2011～2013年度)	2012年度	
			環境目標	実績
1	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 製品・受託試験・プロセス (生産部門・事務部門) でCO₂排出量を削減します 削減 7,000t以上 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減 5,200t以上 	6,369t
			<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品・省エネ改造サービスの提供で、お客さまでのCO₂排出量を4,630t以上削減します 	5,430t
			<ul style="list-style-type: none"> 製品 <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型製品として新製品1機種の開発を完了します 	2機種発売
			<ul style="list-style-type: none"> 昨年の成果の活用と新たな施策によって受託試験所の省エネを進め、CO₂排出量を170t以上削減します 	204t
			<ul style="list-style-type: none"> 昨年の成果の活用と新たな施策によって生産部門・事務部門にてCO₂排出量を400t以上削減します 	734t
2	生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 160件以上 	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による累積助成件数を148件以上にします 	151件
		<ul style="list-style-type: none"> 「みどりの学校」を充実し、「ゴーヤ先生養成セミナー」による環境教育と啓発を推進します 累積受講生 750名以上 	<ul style="list-style-type: none"> 「みどりの学校」を充実し、「ゴーヤ先生養成セミナー」の累積受講生を650名以上にします 	1173名
3	汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> 欧州向け製品をRoHS規制対応品とします 	<ul style="list-style-type: none"> 4機種をRoHS規制対応品とすべく進めます 	ほぼ予定通り進捗
		<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準に基づく部品調達率80%以上を維持します 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準に基づく部品調達率80%以上を維持します 	調達率93%
4	循環型社会の実現に寄与	<ul style="list-style-type: none"> 国内においてゼロエミッションを実現する事業所を増やします (現在の24事業所すべて達成) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内においてゼロエミッションを実現する事業所を2つ増やします 	2事業所減
		<ul style="list-style-type: none"> 製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収200台以上 	<ul style="list-style-type: none"> 製品リサイクルサービスを充実し、回収台数150台以上にします 	回収113台
5	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> 設計・事務部門で、事務用紙使用量を削減します 削減20万枚以上 	<ul style="list-style-type: none"> 設計・事務部門で、10万枚の事務用紙使用量を削減します 	8.2万枚削減

2013年度・環境目標

2013年度は第5次環境中期計画の最後の年です。2012年度後半から、国内のお客さまによる設備投資に陰りが現れてきましたが、海外への投資は引き続き期待できることなどを踏まえ、CO₂排出量削減目標は、当初の7,000t削減から6,800t削減に修正いたしました。

一方、「みどりの学校」の2013年度目標は、2012年度に大幅に超過し達成しましたので、次の段階に入り、エスペックの生産拠点がある福知山市と協働し、福知山市が掲げる「みどりのカーテン実施率日本一」の目標達成を目指します。

2013年度 目的・目標

	目的・目標テーマ	環境目的 (2011～2013年度)	2013年度	
			環境目標	
1	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 製品・受託試験・プロセス(生産部門・事務部門)でCO₂排出量を削減します 削減 6,800t以上 ※1 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量削減 6,800t以上 	
			<ul style="list-style-type: none"> 省エネ製品・省エネ改造サービスの提供で、お客さまでのCO₂排出量を5,740t以上削減します 	
			製品・改造	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮製品として新製品1機種の発売を完了します
				<ul style="list-style-type: none"> 既にお客さまにて使用されている高温器を省エネに改造するサービスを開始します
			<ul style="list-style-type: none"> 受託試験所の省エネを進め、CO₂排出量を330t以上削減します 	
<ul style="list-style-type: none"> 生産部門・事務部門にてCO₂排出量を730t以上削減します 				
2	生物多様性保全	<ul style="list-style-type: none"> 公益信託「エスペック地球環境研究・技術基金」による助成を充実します 累積助成件数 160件以上 		
		<ul style="list-style-type: none"> 福知山市が掲げる「みどりのカーテン実施率日本一」の目標を達成するために、「エスペックみどりの学校」は「ゴーヤ先生養成セミナー」を拡充して取り組みます ※2 2013年 福知山市・家庭分野でのみどりのカーテン実施率10%以上 		
3	汚染防止	<ul style="list-style-type: none"> 欧州向け製品をRoHS規制対応品とします 	<ul style="list-style-type: none"> 欧州向け製品の内、2機種についてRoHS対応品とします 	
		<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達基準に基づく部品調達率90%以上を維持します ※2 		
4	循環型社会の実現に寄与	<ul style="list-style-type: none"> 国内のすべての事業所においてゼロエミッションを達成します 		
		<ul style="list-style-type: none"> 製品リサイクルサービスを充実し、回収した製品の有効利用を図ります 回収170台以上 ※1 		
5	環境負荷低減	<ul style="list-style-type: none"> 設計・事務部門で、事務用紙使用量を削減します 削減20万枚以上 		

※1 2012年度実績および2013年度の経営を取り巻く環境を踏まえ目標値を下方修正しています。

※2 2012年度の実績が2013年度も目標を達成しましたので、目標値を上方修正しています。

環境に配慮した製品

エスペックは、「環境配慮開発設計ガイドライン」を制定し、製品の省エネはもとより、リサイクルや化学物質の適正使用など総合的な視点から環境配慮型製品の開発・提供を進めています。

環境配慮型製品創出への取り組み

環境に配慮した製品の提供を通じて、お客さま先での環境負荷低減に努めています。

製品開発の基本的な考え方

当社では、早くから地球環境保全に関心を持ち、製品の運転時の消費電力量低減や化学物質の適正使用、製品廃棄時における環境負荷低減などの問題に取り組んできました。その製品開発の姿勢は現在へと受け継がれ、当社の主力製品「環境試験器」が抱えている環境面での課題を明確にし、これらを解決する「環境配慮型製品」の開発を継続的に行っています。その基本的な指針となるのが「環境配慮開発設計ガイドライン」です。制定以来、時代とともに改訂を重ね安全・品質・価格・環境・納期のすべてに満足する製品を開発することを基本にしています。これからも地球環境に配慮した製品の創出を通じて、社会やお客さまに貢献することを目標に活動していきます。

リサイクルへの取り組み

当社製品は、金属材料と樹脂材料で構成しており、廃棄の際の分別が困難で、廃棄物処分場に負担をかけています。開発段階から製品のリサイクルを考え、

- 解体・分別しやすい構造
- 樹脂部分の材質マーキングなどを新製品・モデルチェンジ品に順次適用しています。

冷媒フロンへの取り組み

当社では、1995年のCFCフロン全廃規制に先駆け、1994年にCFCフロンを製品・工場から排除。2000年には、当社製品の冷凍回路のHFCフロンへの転換を完了させています。

化学物質の適正使用

危険有害化学物質排除に向けて、自主的にRoHS指令対応部品への代替化を進めています。

危険有害化学物質排除に向けて

製品設計にあたり使用禁止物質を指定し、有害物質の使用を削減してきました。

RoHS指令における6品目の有害物質については、2013年3月末現在、当社製品は規制の対象製品ではありませんが、2014年から順次自主的にRoHS対応製品を提供できるように進めています。

PRTR法(化学物質排出移動量届出制度)への対応

当社では、数百種類の危険有害化学物質を使用しています(当社基準に基づく選定)。これらに対し、SDSの配備、使用・保管に関する手順書の整備、より安全性の高い物質への置き換えの促進など適正な管理を実施しています。化学物質の移動量管理については、自主管理基準で1kg以上を集計単位として管理しています。2012年度、報告義務のある1t以上の取扱量となる物質はありませんでした。

アスベスト対応

当社では、過去の製品において断熱材やパッキンの一部にアスベスト含有部材を使用していた時期があります。2006年6月末までにすべての製品においてアスベスト含有部材の使用を取り止めております。

従来から当社製品をご利用いただいているお客さまに対しては、当社製品のアスベストに関する情報を、ホームページや個別対応にて積極的に情報公開しています。

環境配慮型製品

製品の環境性能をお伝えするため、製品への環境ラベル表示をしています。

グリーンプロダクトラベル

2009年4月、環境配慮型製品の開発促進、製品に関する環境情報の積極的な公開を目指し、当社が定める環境配慮認定基準を満たした製品を「グリーンプロダクト」と認定し、環境ラベルを貼付する「グリーンプロダクトラベル」制度を開始しました。

「グリーンプロダクトラベル」は、国際標準化機構 (ISO) で定められた環境ラベルのうち、自己宣言型 (タイプII) の環境ラベル (ISO/JISQ14021) に相当するものです。



2012年度グリーンプロダクト認定製品

●真空オーブン

扉ロックや函体構造変更、断熱材の改善で槽内の密閉性と断熱性を向上、ポンプの稼働時間を短縮することで消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率
最大 **40%**

※指定運転パターン

●安定性試験器

冷凍機の小容量化と冷却器の改良で消費電力を大幅に低減しました。



省エネ率
最大 **36%**

※指定運転パターン

●恒温(恒湿)器 プラチナスJシリーズ

新冷凍システム (特許出願中) を採用。新開発の Smart R&D (冷凍&除湿) システムを搭載し、省エネルギーと高信頼性を実現、第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。



優秀省エネルギー機器

省エネ率
最大 **70%**

※指定運転パターン



●冷熱衝撃装置 TSAシリーズ

冷凍回路の効率化と、エコ運転機能の予冷・予熱開始時間設定を自動化することにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率
最大 **50%**

※指定運転パターン



●恒温(恒湿)室 ビルドインチャンバー/Eシリーズ

DCインバータ冷凍機による周波数制御と電子膨張弁によるパルス制御の組合せにより、消費電力を大幅に低減しました。

省エネ率
最大 **60%**

※指定運転パターン



※各製品の型式ごとの消費電力および従来比省エネ率については当社ホームページをご覧ください。

環境に配慮した工程

エスベックでは、事業活動のすべてのプロセスにおいて、環境に配慮しています。各拠点・部門で自分たちができることを主体的に考え、環境負荷低減に向けた取り組みを推進しています。

事業活動における環境配慮の取り組み

幅広い範囲で環境負荷低減に向けた改善を進めています。

サービスでの取り組み

●製品回収

環境大臣より広域認定制度の認定を受け、「製品リサイクルサービス」を開始しました。このサービスは、お客さま先で使用済みとなった当社の環境試験器について、お客さまと「産業廃棄物処理委託契約」を締結し、有償にて製品を回収し、再資源化するものです。これにより、お客さまの廃棄手続きにかかる負担の軽減を図るとともに、廃棄物を適正にリサイクル処理していきます。2012年度は使用済み製品を113台回収しました。

●フロン回収

1995年度から修理・廃棄時のフロン回収を行っています。「フロン回収・破壊法」に基づく第一種フロン類回収業者登録を全国の自治体にて行っています。回収した冷媒フロンは、フロン類破壊処理業者にて高温プラズマ破壊等の処理を行い無害化します。これらの回収量は、約40t(2013年3月現在累計)にもおよびます。

■ フロン回収量



物流での取り組み

●資材調達時の取り組み

取引先さまと共同して資材・部品納入に伴う梱包材、緩衝材を削減するため、通い箱化を進めています。また、緩衝材などは、社内で再使用する取り組みにより、廃プラスチックの量を削減することができました。

●製品輸送時の取り組み

地球温暖化を防ぐためにモーダルシフト(鉄道輸送の活用)を始めています。大阪を起点に、北海道、東北、九州、東京といった長距離輸送において、トラック輸送から貨物輸送への切り替えを行っています。関係各社のご協力のもと2012年度の1年間で約32t相当、累計で約151t相当のCO₂削減効果を得ることができました。

事業所での取り組み

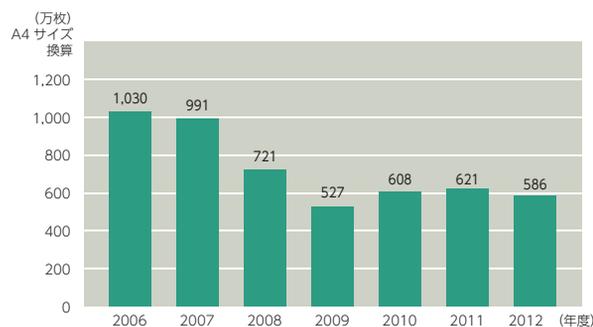
●ゼロエミッションへの挑戦

各事業所におけるゼロエミッション(リサイクル率99%以上)を目指しています。2013年3月現在、全24事業所のうち、約8割にあたる20事業所においてゼロエミッションを維持しています。残りの4事業所においても、今年度ゼロエミッションのしくみを完成させました。

●事務用紙の削減

大切な森林資源を守るために、事業所における紙の削減に取り組んでいます。これまで、製品の取扱説明書を電子化(CD・DVD)し、大幅に紙の削減を達成していますが、2012年度は、さらに複数の機種において電子化を行いました。結果、2011年度の621万枚から約35万枚(6%)減の586万枚となりました。

■ 事務用紙購入量



●社有車のガソリン削減

社有車の使用に伴うCO₂の排出量は全体の約1割を占めています。公共交通機関の利用、低燃費車への切り替え、エコ運転の推進により、ガソリン使用量は、325kℓと昨年より削減することができました。

社会からの評価

環境への取り組みに対する評価

当社の取り組みに対して、
多方面からご評価をいただきました。

優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」 受賞／プラチナスJシリーズ

プラチナスJシリーズが、第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」を受賞しました。当社では第19回(1998年度)のプラチナスKシリーズに続いて2回目の受賞です。(特集1をご覧ください)

環境経営度調査

日本経済新聞社主催の「2012年度環境経営度調査」で、72位に評価されました。この調査は、企業の環境対策を総合的に評価することを目的に、各企業のアンケート結果をもとに「環境経営度スコア」を作成し、日本経済新聞がランキング形式で紙面発表しているものです。2012年度は、汚染対策・生物多様性対応、製品対策でポイントを上げましたが、調査項目が新しくなった環境経営推進体制でポイントを下げることとなり、順位では7位下がる結果となりました。

■環境経営度調査実績

年度	ランク
2012年度	72位
2011年度	65位
2010年度	63位
2009年度	70位
2008年度	101位
2007年度	86位

●最近の受賞歴

- 2013年 3月 モデルフォレスト運動推進表彰
「京都モデルフォレスト協会理事長賞」受賞
- 2013年 1月 第33回優秀省エネルギー機器「日本機械工業連合会会長賞」受賞(恒温恒湿器プラチナスJシリーズ)
- 2012年 2月 eco検定アワード2011「エコピープル大賞」受賞
- 2012年 1月 eco japan cup 2011「カルチャー部門
エコミュージック審査員応援賞」受賞
- 2011年12月 第8回「エコプロダクツ大賞」
審査委員長特別賞(奨励賞)
- 2010年11月 大分県緑のカーテンコンテスト部門賞
- 2010年 6月 兵庫県電力利用合理 議会 会長賞
- 2009年 6月 兵庫県環境にやさしい事業者賞
- 2009年 5月 日本ビオトープ協会顕彰委員長賞

モデルフォレスト運動推進表彰

「京都モデルフォレスト協会理事長賞」受賞

福知山市の大江町毛原には「棚田百選」にも選ばれた自然豊かな美しい場所があります。この場所の里山には「ミツバツツジ」が自生していますが、下草が伸びたり、森林の整備が滞り「ミツバツツジ」が埋もれています。この里山を整備し「ミツバツツジ」を際立たせ、より景観の良い地域にすべく、京都府と自治会が協議してモデルフォレスト地区に決めました。この地区の整備をエスペックとパナソニック・フォトライティング様が共同でお手伝いしております。

2007年の活動開始以来、エスペックは延べ335名を動員し、モデルフォレスト活動を推進したことが評価されました。



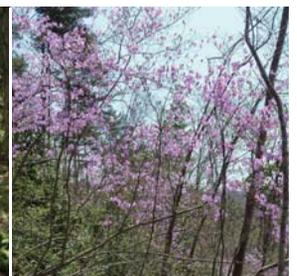
パナソニック・フォトライティング株式会社 浦野 潔広 様
福知山市大江町毛原自治会(元会長) 櫻井一好 様
エスペック株式会社 上杉 哲夫(左から)



京都府福知山市大江町にある毛原の「棚田」



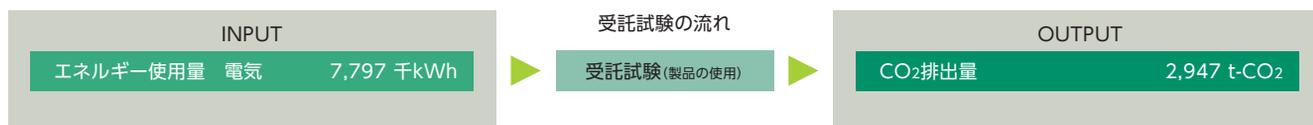
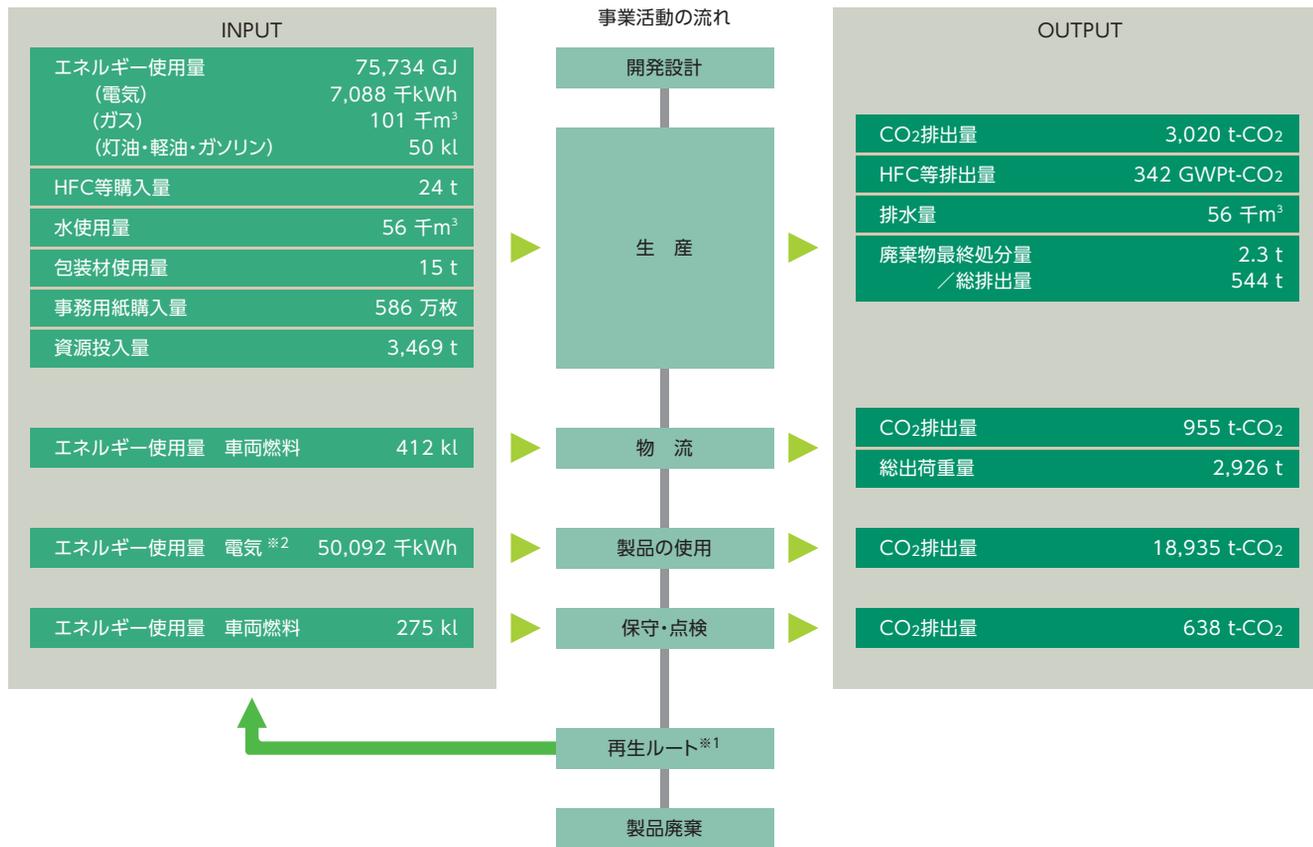
里山の「森林整備」



自生した「ミツバツツジ」

事業活動の マテリアルバランス

■ 2012年度実績



※1 エスペック製品リサイクルサービス

※2 製品の使用に伴うエネルギーの使用は2012年度主力製品出荷実績からの試算

■ 算出根拠

換算係数	熱量換算	CO ₂ 換算
①電力	千kWh=9.82 GJ	千kWh=0.378 t-CO ₂
②長田野ガス	千m³=45.0 GJ	千m³=2.29 t-CO ₂
③都市ガス	千m³=41.1 GJ	千m³=2.11 t-CO ₂
④LPガス	千m³=100 GJ	千m³=5.98 t-CO ₂
⑤灯油	1kl=36.7 GJ	1kl=2.49 t-CO ₂
⑥軽油	1kl=38.2 GJ	1kl=2.62 t-CO ₂
⑦ガソリン	1kl=34.6 GJ	1kl=2.32 t-CO ₂

「事業者からの温室効果ガス排出量算定方法ガイドライン」(環境省)を参考に設定

実績データ

■ サイト別データ(2012年度実績)

	本 社	福知山工場	宇都宮 テクノ コンプレックス	神戸R&D センター	大阪オフィス	全国の営業所・ 事業所計 17事業所合計	豊田試験所	刈谷試験所	ISO14001 一括取得対象 24事業所
地域区分	商業地域	工業専用地域	工業専用地域	準工業地域	準工業地域	—	—	—	—
主な業務・生産物	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の販売、開発、設計 ならびに資材・ 部品の購買業務	環境試験装置・ 電子デバイス装置 の製造	環境試験装置・電子 デバイス装置等の販売、 メンテナンス(点検・保守) 受託試験 製品レンタル	技術開発拠点 および受託試験	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	環境試験装置・ 電子デバイス装置 等の販売、 メンテナンス (点検・保守)	受託試験 製品レンタル	受託試験 製品レンタル	—
排出物の発生量(総量)※	10.7 t	385.9 t	32.5 t	16.2 t	13.1 t	70.0 t	12.2 t	2.9 t	543.5 t
産業廃棄物量	0.4 t	83.1 t	10.4 t	6.0 t	5.6 t	47.9 t	0.9 t	0.6 t	154.9 t
事業系一般廃棄物量	10.3 t	66.0 t	5.3 t	0.6 t	0.9 t	8.0 t	1.4 t	0.1 t	92.4 t
有価物	—	236.8 t	16.8 t	9.6 t	6.6 t	14.1 t	9.9 t	2.3 t	296.2 t
電力	424 千kWh	4,780 千kWh	2,449 千kWh	2,295 千kWh	126 千kWh	329 千kWh	3,472 千kWh	1,012 千kWh	14,886 千kWh
事務用紙購入量	146 万枚	213 万枚	8 万枚	21 万枚	24 万枚	170 万枚	4 万枚	1 万枚	586 万枚
ガス使用量	1,533 m ³	54,194 m ³	—	42,183 m ³	24 m ³	1,561 m ³	—	9 m ³	99,504 m ³
社有車保有台数	7 台	6 台	16 台	3 台	26 台	140 台	3 台	—	201 台
うち、ハイブリッドカー	—	3 台	3 台	1 台	3 台	13 台	1 台	—	24 台
燃料使用量(ガソリン)	13 kl	6 kl	18 kl	3 kl	41 kl	242 kl	2 kl	—	325 kl
走行距離	177,732 km	97,463 km	247,412 km	47,109 km	524,705 km	2,881,085 km	31,611 km	—	4,007,117 km
順法への対応	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合	適合
地域からのクレームなど	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし

※ お客さま先での作業時発生分を含む

■ 2012年度 全社PRTR実績

(単位:t)

第1種指定化学物質の名称	キシレン	トリエチレンテトラミン	トルエン	ヒドラジン	ノルマルヘキサン
第1種指定化学物質の番号	80	278	300	333	392
年間取扱量	0.002	0.003	0.011	0.023	0.001
製品への含有分(自主測定項目)	—	0.003	—	—	0.001
リサイクル分(売却分)(自主測定項目)	—	—	—	—	—
排出量	イ) 大気への年間排出量	0.002	—	0.011	—
	ロ) 公共用水域への年間排出量	—	—	—	—
	ハ) 当該事業所における土壌への排出 二) 以外	—	—	—	—
	ニ) 当該事業所における埋立処分	—	—	—	—
移動量	イ) 下水道への移動	—	—	—	0.023
	ロ) 当該事業所の外への移動 イ) 以外	—	—	—	—

環境会計

■ 2012年度環境会計

集計範囲：エスペック株式会社

対象期間：平成24年4月1日～平成25年3月31日

■ 環境保全コスト

(単位：千円)

分類	主な取り組みの内容	2011年度		2012年度	
		投資額	費用額	投資額	費用額
(1) 生産・サービス活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト(事業エリア内コスト)		68,306	39,574	43,146	51,650
内訳	①公害防止コスト	—	149	—	118
	②地球環境保全コスト	68,306	28,590	43,146	36,456
	③資源循環コスト	—	10,835	—	15,075
(2) 生産・サービス活動に伴って上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するためのコスト(上・下流コスト)		—	—	—	—
(3) 管理活動における環境保全コスト(管理活動コスト)	ISO14001運用経費	—	89,646	—	63,354
(4) 研究開発活動における環境保全コスト(研究開発コスト)	環境配慮型製品・技術の開発	—	819,140	—	339,231
(5) 社会活動における環境保全コスト(社会活動コスト)		—	3,011	—	2,391
(6) 環境損傷に対応するコスト(環境損傷コスト)		—	—	—	—
合計		68,306	951,371	43,146	456,625

(単位：千円)

項目	2011年度	2012年度
当該期間の投資額の総額	540,785	654,546
当該期間の研究開発費の総額	1,341,249	1,116,381

■ 環境保全対策に伴う経済効果

(単位：千円)

効果の内容		金額
収益	リサイクルにより得られた収入額	6,516
費用削減	省エネルギーによる費用削減	6,468

■ 環境保全効果

効果の内容	環境保全効果を表す指標		
	指標の分類	指標の値	
(1) 事業活動に投入する資源に関する効果	電力の使用	2011年度	2012年度
	電力消費量(千kWh)	6,672	6,241
	削減量(対前年比)(千kWh)	-796.4	431.2
	原単位(千kWh/億円)	27.1	26.8
	原単位での削減率(対前年比)(%)	-3.9	1.2
(2) 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	廃棄物の排出	2011年度	2012年度
	発生総量(t)	1.8	2.3
	削減量(対前年比)(t)	0.7	(0.5)
	原単位(kg/億円)	7.2	9.9
	原単位での削減率(対前年比)(%)	35.1	-37.1
	売上高(億円)	245.8	232.7

注1. 一付きの値は増加分

注2. 電力は、生産部門+事務所電力の合計(研究開発と受託試験分は除く)

注3. 廃棄物は、事業所内で発生した埋立廃棄物の合計

会社概要 (平成25年8月1日現在)

創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	68億9,500万円
証券市場	東京証券取引所 第一部
発行済株式総数	23,259,945株
従業員数	1,318名(連結) 844名(単体)

営業概況 (平成25年3月期)

	(単位:百万円)	
	連結	単体
売上高	30,799	23,267
営業利益	1,866	1,226
経常利益	2,162	1,659
当期純利益	1,219	1,511
純資産	30,455	29,104
総資産	39,724	36,070

事業所 (平成25年9月30日現在)

本社
530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6 Tel:06-6358-4741 Fax:06-6358-5500
首都圏オフィス
105-0004 東京都港区新橋5-14-10 新橋スクエアビル6F Tel:03-6402-3591 Fax:03-6402-3594
大阪オフィス
572-0072 大阪府寝屋川市太間東町15-8 Tel:072-834-1191 Fax:072-834-7755
神奈川オフィス
211-0041 川崎市中原区下小田中1-29-12 Tel:044-740-8450 Fax:044-797-0073
宇都宮テクノコンプレックス
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1 Tel:028-667-8730 Fax:028-667-8733
神戸R&Dセンター
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5 Tel:078-951-0960 Fax:078-951-0967
福知山工場
620-0853 京都府福知山市長田野町1-7 Tel:0773-27-3131 Fax:0773-27-1132

仙台営業所
981-3135 仙台市泉区八乙女中央2-2-22 Tel:022-218-1891 Fax:022-218-1894
つくば営業所
305-0035 茨城県つくば市松代1-11-10 Tel:029-854-7805 Fax:029-854-7785
熊谷営業所
360-0833 埼玉県熊谷市広瀬240-3 Tel:048-520-2360 Fax:048-525-7865
西東京営業所
186-0011 東京都国立市谷保6049 Tel:042-501-2571 Fax:042-501-2573
静岡営業所
422-8036 静岡市駿河区敷地2-26-10 Tel:054-237-8000 Fax:054-238-3441
名古屋営業所
465-0095 名古屋市名東区高社2-250 Tel:052-777-2551 Fax:052-777-2575
金沢営業所
920-8203 金沢市鞍月3-115 Tel:076-268-1891 Fax:076-268-1893
滋賀営業所
520-3234 滋賀県湖南市中央1-44-1 市兵衛ビル1F Tel:0748-72-5077 Fax:0748-72-5070
兵庫営業所
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5 (神戸R&Dセンター内) Tel:078-950-1771 Fax:078-950-1772
広島営業所
731-0103 広島市安佐南区緑井1-12-25 Tel:082-830-5211 Fax:082-876-5050
福岡営業所
812-0006 福岡市博多区上牟田1-28-16 コスモブレインビルE室 Tel:092-471-0932 Fax:092-474-3500
厚木サービスプラント
259-1117 神奈川県伊勢原市東成瀬36-5 Tel:0463-94-9433 Fax:0463-94-6542
新居浜サービスプラント
792-0812 愛媛県新居浜市坂井町1-1-32 Tel:0897-31-3160 Fax:0897-36-3180
宇都宮試験所
321-3231 宇都宮市清原工業団地23-1 (宇都宮テクノコンプレックス内) Tel:028-667-8735 Fax:028-667-8738
豊田試験所
471-0844 愛知県豊田市聖心町3-44-1 Tel:0565-25-3364 Fax:0565-25-3365
刈谷試験所
448-0034 愛知県刈谷市神明町1-3 Tel:0566-62-8380 Fax:0566-62-8385
神戸試験所
651-1514 神戸市北区鹿の子台南町5-2-5 (神戸R&Dセンター内) Tel:078-951-0961 Fax:078-951-0967

エスペックグループ〈国内〉

エスペックテストシステム株式会社
658-0045 神戸市東灘区御影石町1-6-6 Tel:078-856-5181 Fax:078-856-5186
エスペック九州株式会社
802-0062 北九州市小倉北区片野新町2-6-15 Tel:093-941-1731 Fax:093-921-2822
エスペックミック株式会社
480-0138 愛知県丹羽郡大口町大御堂1-233-1 Tel:0587-95-6369 Fax:0587-95-4833

エスペックグループ〈海外〉

ESPEC NORTH AMERICA, INC.
4141 Central Parkway, Hudsonville, MI 49426, U.S.A. Tel:(1) 616-896-6100 Fax:(1) 616-896-6150
SHANGHAI ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT CORP.
1518 Hao, Hua xin Zhen Hua zhi Road, Qing pu Qu, Shanghai, 201708, P.R. China Tel:(86) 21-69791178 Fax:(86) 21-69791213
ESPEC ENVIRONMENTAL EQUIPMENT (SHANGHAI) CO., LTD.
F5, ShenHua Financial Building, NO 1 NingBo Road, Huangpu District Shanghai, 200002, P.R. China Tel:(86) 21-51036677 Fax:(86) 21-63372237
ESPEC TEST TECHNOLOGY (SHANGHAI) CO., LTD.
Room 106, Building 8, No. 3000 Longdong Avenue, Pudong New Area, Shanghai 201203, P.R. China Tel:(86) 21-68798008 Fax:(86) 21-68798088
ESPEC TEST EQUIPMENT (GUANGDONG) CO., LTD
ESPEC (CHINA) LIMITED
ESPEC KOREA CORP.
452-3, Hyeongok-Ri, Chongbuk-Myeon, Pyeongtaek-City, Gyeonggi-do 451-831, Korea Tel:(82) 31-686-8523 Fax:(82) 31-686-8526
ESPEC SOUTH EAST ASIA SDN. BHD.
No.10-1, Jalan Dagang SB 4/2, Taman Sungai Besi Indah, 43300, Seri Kembangan, Selangor Darul Ehsan Malaysia Tel:(60) 3-8945-1377 Fax:(60) 3-8945-1287
ESPEC EUROPE GmbH
Dachauer Strasse 11, D-80335, München, Germany Tel:(49) 89-1893-963-0 Fax:(49) 89-1893-963-79

■ CSRレポート企画・編集発行

エスペック株式会社 経営戦略部 ブランド企画グループ
CSRレポート編集委員会

■ CSRレポートについてのお問い合わせ窓口

エスペック株式会社
Tel:06-6358-4744 Fax:06-6358-4795
E-Mail:csr@espec.co.jp

エスペック株式会社

530-8550 大阪市北区天神橋 3-5-6
Tel: 06-6358-4741 Fax: 06-6358-5500
<http://www.espec.co.jp/>

未来が変わる。日本が変わる。
チャレンジ 25
エスペックは地球温暖化防止国民運動、
チャレンジ25キャンペーンに参加しています。

